



RESEARCH REPORT

調査報告書

2025

発達障がい児の特別支援教育の 利用に関する実態調査

一般社団法人 人間力認定協会

RESEARCH REPORT

調査報告書
2025.11.1



CONTENTS

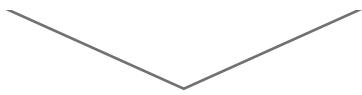
～発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査～

はじめに 専門チーム代表の挨拶	P2
1 章 調査に至った背景	P3
2 章 特別支援教育の利用に関するアンケート調査	P5
3 章 調査結果の総括と考察	P19
4 章 アンケート自由記述のご紹介	P21

TOPICS

- ・利用者の約4割が「後悔なし」と回答 高い満足度
- ・最大のメリットは「心の安定」 保護者の37%が実感
- ・利用児童の4人中3人(75%)が男の子という実態
- ・課題は「先生の質」 約2割が指導方法に不満を指摘

はじめに 専門チーム代表の挨拶



この度、一般社団法人 人間力認定協会は、CSR活動の一環として「発達障害調査研究チーム」を発足いたしました。本報告書を皆様にお届けできることを、チーム一同、大変光栄に思います。

私たちの理念『発達障害を「障害」としない社会』を実現するためには、一人ひとりの発達障害に対する正しい理解が不可欠です。発達障害への関心が高まる一方、根強い誤解や偏見により、当事者やご家族が生きづらさを抱えています。私たちは、正しい知識と理解を社会に広めることでこの現状を改善すべく、本チームを立ち上げました。

本チームは、発達障害の特性や可能性を引き出す支援のあり方を多角的に調査・研究します。最大の強みは、これまでに3万名を超える皆様が学ばれた、当協会認定「児童発達支援士」の皆様との広範なネットワークです。日々子どもたちと真剣に向き合う受講生や関連団体の皆様から寄せられる「現

場の生の声（一次情報）」は、何物にも代えがたい貴重なデータとなります。

皆様からいただいた実践的な知見を丁寧に分析し、信頼性の高い情報として社会に発信することで、本報告書が支援現場の指針やご家庭でのヒント、さらには教育・福祉における政策提言の礎となることを目指します。

この一歩が、発達障害のある方一人ひとりがその個性をもって輝き、誰もが支え合い成長できる社会の実現に繋がるものと確信しております。

本調査研究にご協力いただく皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 人間力認定協会
発達障害調査研究チーム
代表 望月 宏彰

1章 調査に至った背景

子どもの成長の中でも「就学」は本人と家族にとって大きな節目の一つです。

しかし、発達に特性のあるお子さんを持つ保護者の方にとっては、この時期は期待と同時に、不安や迷いを感じることも少なくありません。その中心にあるのが「通常学級」と「特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室など）」のどちらを選ぶかという、学びの場の選択です。

当協会には、この就学を前にした保護者の方々から多くのご相談が寄せられます。その多くは、子どもを思う気持ちからくる迷いや悩みです。保護者ご自身が通常学級で育ってきた経験から「自分の子にも同じように」と願うのは自然なことです。それは「みんなと一緒に過ごしてほしい」という親心でもあります。

一方で、「この子にとって一番合っている環境はどこだろう」「無理をして辛い思いをしないだろうか」「集団の中で自信をなくしてしまわないだろうか」といった心配もあります。このような気持ちは、子どもを大切に思うからこそ生まれるものです。そうした中で、幼稚園や保育園の先生、または保健師などの専門家から「特別支援教育の利用も考えてみてはどうか」と提案を受けたとき、多くの保護者が戸惑いを感じます。

頭では子どものための助言だと分かっていても「自分の子だけが違う道を歩むのかもしれない」と感じ、不安になる方もいます。さらに悩みを深める要因として「それぞれの選択肢の先にどんな学びや成長があるのか」が見えにくいという現状があります。

例えば「特別支援教育ではどのような支援が受けられるのか」「他の子と違うことでいじめにあわないか」「学習のペースが遅れて将来の選択肢が狭まらないか」など、さまざまな疑問や不安の声が聞かれます。これら的心配は、特別なものではありません。特別支援教育の制度や考え方は少しづつ広がってきていますが、実際の様子についての具体的な情報はまだ十分に伝わっていません。特別支援教育を利用している子どもたちが学校でどのように過ごし、どんな経験をしているのかを知る機会は限られています。

こうした状況をふまえ、私たちは「発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査」を行うことにしました。この調査の目的は、就学を前に悩んでいる保護者の方々に、実際に特別支援教育を選んだご家庭の体験を届けることです。多くの事例を集めて分析することで、これまであまり知られてこなかった特別支援教育の現状を、

より具体的に知ってもらいたいと考えています。

この報告書が、保護者の方々の不安を少しでも和らげ、子どもにとってより良い学びの場を考えるための手がかりとなることを願っています。そして、一人ひとりの子どもが、自分らしく成長できる環境を見つけるための参考になれば幸いです。

2章 特別支援教育の利用に関するアンケート調査

調査の概要

- 【調査名称】 発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査
- 【調査目的】 特別支援教育の利用に関する実態を明らかにすること
- 【調査対象】 当協会認定資格「児童発達支援士」等の受講者であり、かつお子様が特別支援教育を利用している保護者
- 【調査期間】 2022年8月21日～2025年5月16日
- 【調査方法】 Webアンケートフォームによる記名式調査 ※1
- 【設問一覧】
①子どもの学年 ②性別 ③発達障害診断名
④利用している特別支援教育の種類
⑤特別支援教育を利用するに至った理由
⑥子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか
⑦利用して良かったと感じる点
⑧利用して良くなかった・後悔している点
- 【有効回答数】 63件

本章では、アンケート調査の集計結果を客観的なデータとして記述いたします。本章で提示する集計結果には、選択式の設問に加え、皆様から寄せられた自由記述を分析したものも含まれております。自由記述の分析にあたっては、回答者の意図を尊重しつつ、当協会にて内容を精査し、共通するテーマごとにカテゴリー分類を行いました。そのためこれらのデータは、回答者が抱える悩みや意見の全体的な「傾向」を把握するための参考資料としてご覧いただけますと幸いです。

本報告書では、客観的な事実と私たちの見解を明確に区別してお伝えするため、集計結果に基づく私たちの総括や考察は、第3章にて詳しく述べております。また、アンケートにご協力いただいた皆様から寄せられた貴重な自由記述（一次情報）に関しましては、第4章にて原文のまま紹介しておりますので、併せてご覧ください。

※1 個人情報は、当協会のプライバシーポリシーに基づき厳重に管理し、本調査目的以外での使用は一切行いません

Q1. 子どもの学年

回答方式：単一選択式

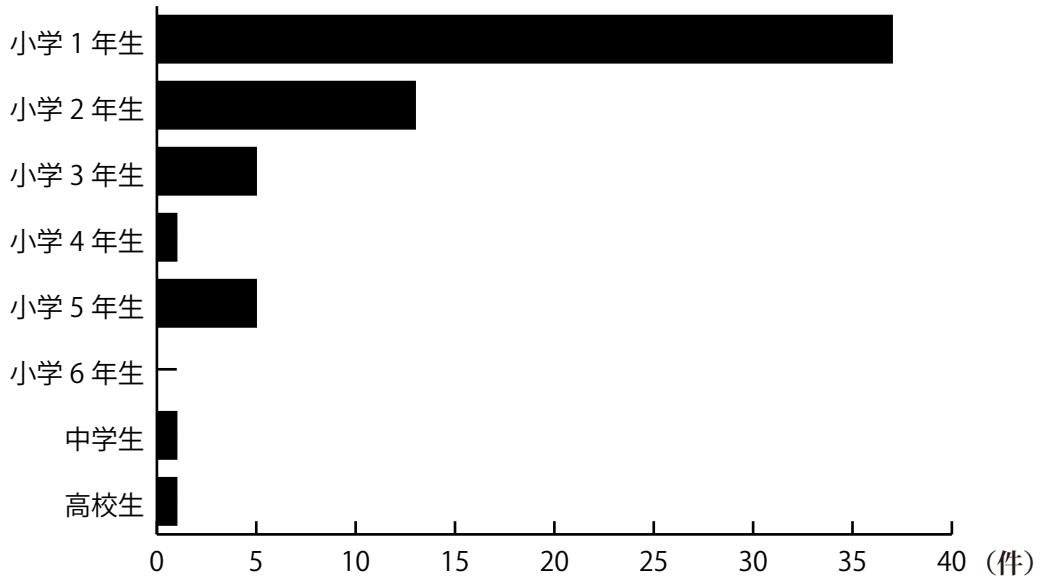
Q1. 子どもの学年

図1：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 子どもの学年

区分	件数	割合
小学1年生	37件	58.7%
小学2年生	13件	20.6%
小学3年生	5件	7.9%
小学4年生	1件	1.6%
小学5年生	5件	7.9%
小学6年生	0件	0.0%
中学生	1件	1.6%
高校生	1件	1.6%
総計	63件	—

Q2. 子どもの性別

回答方式：単一選択式

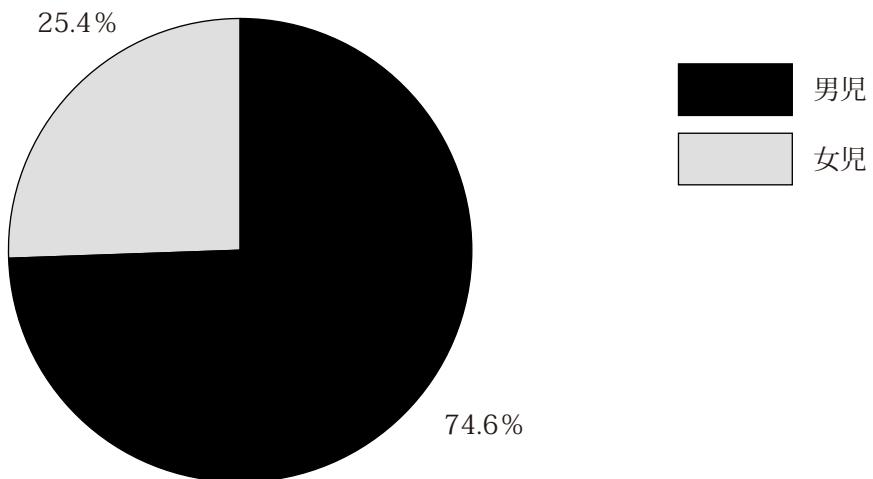
Q2. 子どもの性別

図 2：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 子どもの性別

性別	件数	割合
男児	47 件	74.6%
女児	16 件	25.4%
総計	63 件	—

特別支援教育を利用している児童の性別は、男児が約 75% となり圧倒的多数を占める結果となりました。

Q3. 発達障害診断名

回答方式：複数選択式

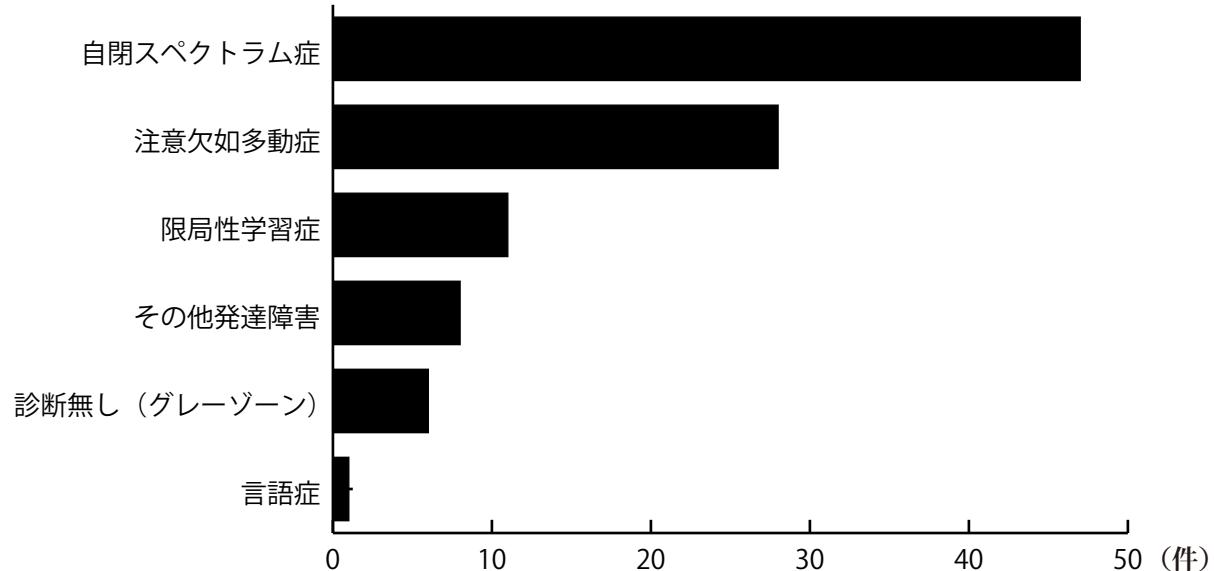
Q3. 発達障害診断名

図3：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 発達障害診断名

診断名	件数	割合 ※
自閉スペクトラム症	47 件	74.6%
注意欠如多動症	28 件	44.4%
限局性学習症	11 件	17.5%
その他発達障害	8 件	12.7%
診断無し（グレーゾーン）	6 件	9.5%
言語症	1 件	1.6%

※割合は有効回答数63件に対する百分率

※有効回答数：63件 延べ件数：102件

診断名を複数回答形式で集計した結果、自閉スペクトラム症児が74.6%と圧倒的に多いことがわかりました。診断無し（グレーゾーン）の子どもも9.5%であることから、特別支援教育の利用に際して、障害の診断は必須ではないことがわかります。

Q4. 利用している特別支援教育の種類

回答方式：単一選択式

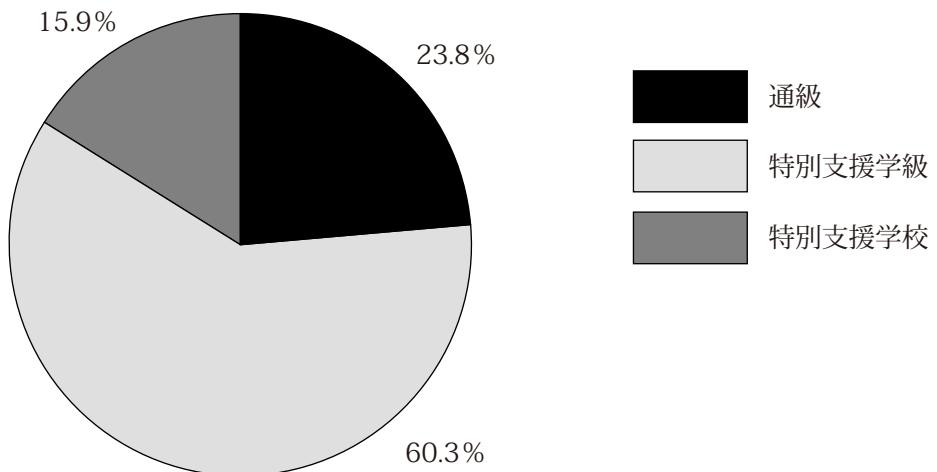
Q4. 利用している特別支援教育の種類

図 4：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 利用している特別支援教育はどれか

不安カテゴリー	件数	割合
通級	15 件	23.8%
特別支援学級	38 件	60.3%
特別支援学校	10 件	15.9%

～発達障害診断名と利用している特別支援教育の関連性調査～**●通級に通う 15 名の発達障害診断名**

診断名	件数	割合
診断無し（グレーゾーン）	5 件	33.3%
自閉スペクトラム症	4 件	26.7%
自閉スペクトラム症 + 限局性学習症	2 件	13.3%
自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症	2 件	13.3%
注意欠如多動症 + その他発達障害	1 件	6.7%
自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症 + 限局性学習症	1 件	6.7%

●特別支援学級に通う 38 名の発達障害診断名

診断名	件数	割合
自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症	13 件	34.2%
自閉スペクトラム症	11 件	28.9%
自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症 + 限局性学習症	3 件	7.9%
自閉スペクトラム症 + 限局性学習症	2 件	5.3%
注意欠如多動症	2 件	5.3%
自閉スペクトラム症 + その他発達障害	2 件	5.3%
診断無し（グレーゾーン）	1 件	2.6%
注意欠如多動症 + その他発達障害	1 件	2.6%
その他発達障害	1 件	2.6%
注意欠如多動症 + 限局性学習症	1 件	2.6%
自閉スペクトラム症 + 限局性学習症 + 言語障害	1 件	2.6%

●特別支援学校に通う 10 名の発達障害診断名

診断名	件数	割合
自閉スペクトラム症	4 件	40.0%
自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症	1 件	10.0%
注意欠如多動症 + その他発達障害	1 件	10.0%
その他発達障害	1 件	10.0%
注意欠如多動症	1 件	10.0%
自閉スペクトラム症・その他発達障害	1 件	10.0%
注意欠如多動症・限局性学習症	1 件	10.0%

この統計から、複数の障害の特性が出ているケースほど、特別支援学級や特別支援学校の選択が多くなっていることがわかりました。中でも顕著だったのは、「自閉スペクトラム症 + 注意欠如多動症」の組み合わせの場合は、86.7% が通級ではなく特別支援学級を選択していることです。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

回答方式：自由記述方式

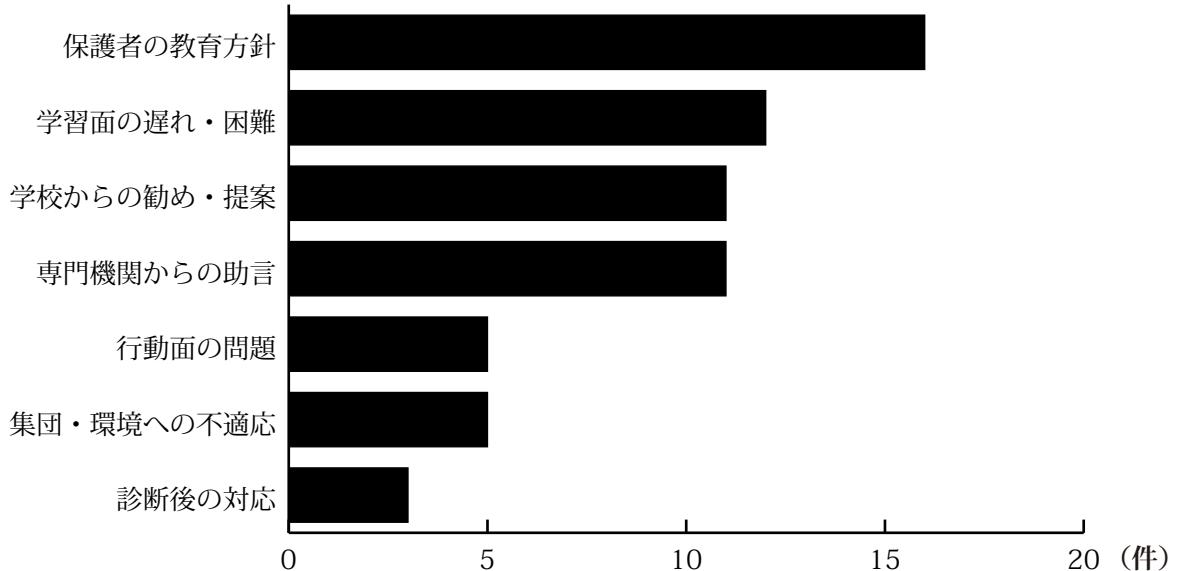
Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

図 5：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 特別支援教育を利用するに至った理由

順位	決断理由カテゴリー	件数	割合
1	保護者の教育方針	16 件	25.4%
2	学習面の遅れ・困難	12 件	19.0%
3	学校からの勧め・提案	11 件	17.5%
〃	専門機関からの助言	11 件	17.5%
5	行動面の問題	5 件	7.9%
〃	集団・環境への不適応	5 件	7.9%
7	診断後の対応	3 件	4.8%

上位 4 項目が主な決断理由になっていることがわかりました。次項にて、特別支援教育の種類別の決断理由を紹介いたします。

～特別支援教育の種類別の決断理由～

決断理由カテゴリー	通級	特別支援学級	特別支援学校
保護者の教育方針	1 件	9 件	6 件
学習面の遅れ・困難	4 件	7 件	1 件
学校からの勧め・提案	4 件	6 件	1 件
専門機関からの助言	2 件	7 件	2 件
行動面の問題	1 件	4 件	0 件
集団・環境への不適応	1 件	4 件	0 件
診断後の対応	2 件	1 件	0 件

～代表的な自由記述～

※いただいた情報を原文のままで紹介しております

<保護者の教育方針>

- 保育園では加配の先生をつけていただいたが、とても大人数での生活は難しく、小学校入学を前に養護学校に見学、面談をしていただいたが断られたため、特別支援学級しか選択がなかった。
- 子供の能力や発達段階に合わせて見てもらいたかったから。

<学習面の遅れ・困難>

- 周りの子達と学習の面で差があると感じた。
- 小学1年に学習障害、自閉症スペクトラムの診断を受け、授業は字がなかなか書けず読めず苦労していた為、通級に通わせ息子に合った勉強をさせてもらっている。しかし、5年生になった今、他に通級を希望する児童が多すぎる為、先生が足りずなかなか時間が確保できないようです。

<学校からの勧め・提案>

- 担任からのススメで。当時は発達障害と診断されたばかりでした。小学生になってからの困りごとが強く出たタイプで、それまではグレーゾーンとも言われることはありませんでした。(未就園児の頃は怪しいなと思うことはよくありました) 感情のコントロールが苦手で、友達とのトラブルが多かったり学校に対しての不安が多く行き渋りが始まって、私もどうしたらいいのか困っている時に、通級というものがあると教えていただき、支援級に入るほどではないと言われ通級を見学し利用する事を決めました。

<専門機関からの助言>

- 医師2人と保健師1人にそれぞれ相談をして3人共に支援級でと答えました。その中でも保健師の話は子どもの状態と、通う学校の支援の仕組みを分かりやすく説明もありました。学校見学もさせていただきました。保健師の言葉で子どもに安心できる場所作ってあげてです。そこが支援級になると思い決めました。

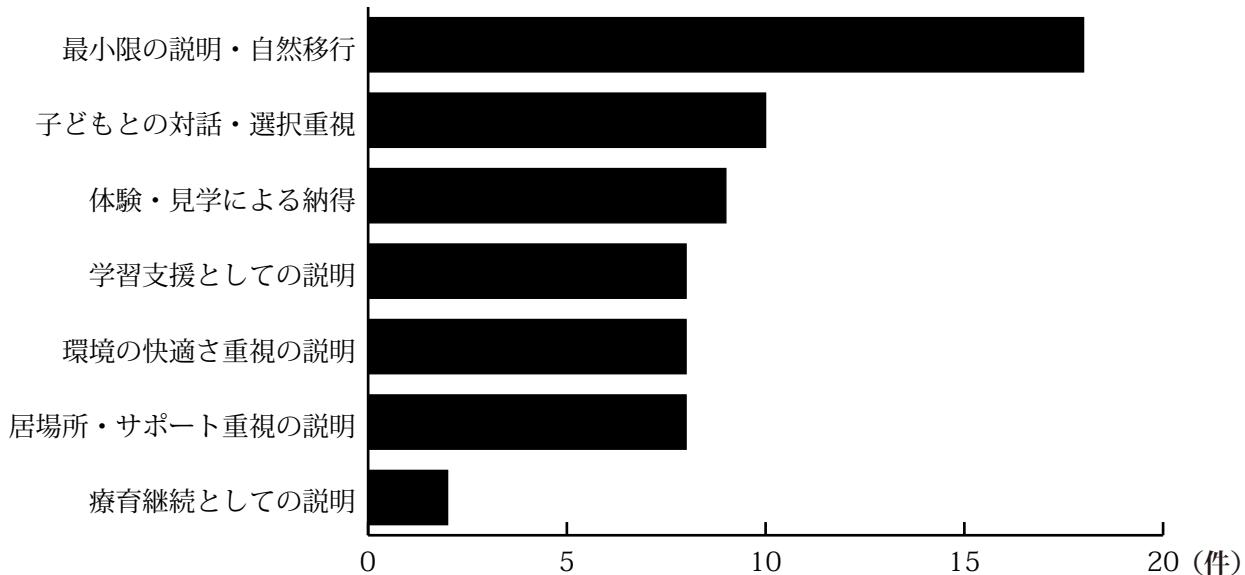
Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか回答方式：
自由記述方式**Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか**

図 6：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

順位	子どもへの伝え方	件数	割合
1	最小限の説明・自然移行	18 件	28.6%
2	子どもとの対話・選択重視	10 件	15.9%
3	体験・見学による納得	9 件	14.3%
4	学習支援としての説明	8 件	12.7%
〃	環境の快適さ重視の説明	8 件	12.7%
〃	居場所・サポート重視の説明	8 件	12.7%
7	療育継続としての説明	2 件	3.2%

子どもへの伝え方で最も多かったのは「最小限の説明・自然移行」となりました。比較的全てのカテゴリにバランスよく分散していることから、子どもの特性や性格によって適切な伝え方が変わることが示唆されています。

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

～代表的な自由記述～ ※いただいた情報を原文のままで紹介しております

<最小限の説明・自然移行>

- そのまま伝えました。週に一度、こういうところで勉強したり遊んだりするよ、と。反応は、そんなんだーくらいでした。ただ、初めての場所は苦手なので、最初はママもいるから大丈夫だよと話しました。
- 学校見学は子どもと行ったので、「あそこに行くよ」と軽く言っただけだと思います。反応もなかったと思います。

<子どもとの対話・選択重視>

- 幼稚園生の時から、自身の特性について、共に話し合ってきた為、ストレートに「〇〇学級にお世話になってみよう」と伝えた。なお、入学前に【〇〇学級】に何度も通い、そこがどのような場所なのか、子どもが知れるよう配慮した。それに対する反応は、可もなく不可もなく、という感じ。というのもやはり、実際に入ってみないとわからない、というのが実情だったように思う。

<体験・見学による納得>

- 細かいことを伝えると理解出来なくてパニックを起こすので、見学に行った学校に行こう！とだけ伝えました。本人は見学をしていたので納得していました。

<学習支援としての説明>

- 先生が2人いる。国語と算数は個別に詳しく教えてくれる。教室が居づらかったらこっちの教室にいられるよ。など。よくわからないながらもすんなり受け入れてた。

<環境の快適さ重視の説明>

- 子供に「人数が多い場所（普通級）と少ない場所（支援学級）どちらで過ごしたい？」と聞いたら、迷わず「少ない場所！」と答えた。

<居場所・サポート重視の説明>

- あなたにとっての居場所を作っておくと困った時に助けてもらえるよ。大好きなバレーも苦手な勉強もみんなに手伝ってもらいながら続けられる方法を考えよう。って伝えました。毎日の荷物が重くて長い距離を歩いて行き帰りするのが、しんどかったんですが彼は荷物を置いて帰るのは嫌だと言いました。私にしたら、荷物を置いて学校に行けるならその方がいいと思いましたが、彼は自分だけずるをするみたいで嫌がりました。先生が彼の事を尊重してくれて、彼の気持ちを大切にしてくれました。しばらくは自転車で送ったり、バスで通っていましたが、体力がつき歩いて下校する日も増えました。今は背番号ももらい、前向きに登校しています。

<療育継続としての説明>

- 未就学時、月1回、約1時間、療育センターで作業療法を受けており、就学になると基本受けることができなくなるため、その代わりに普通級の授業を抜けて、優しい先生たちが作業療法でやっていたようなことや、好きなパズルや体を動かしたりするよ、と伝えた。本人はイメージしづらかったようで、また小学校自体「行きたくない」と入学前から口にしていたため、乗り気ではなかったと記憶する。

Q7. 利用して良かったと感じる点 回答方式：自由記述方式

Q7. 利用して良かったと感じる点

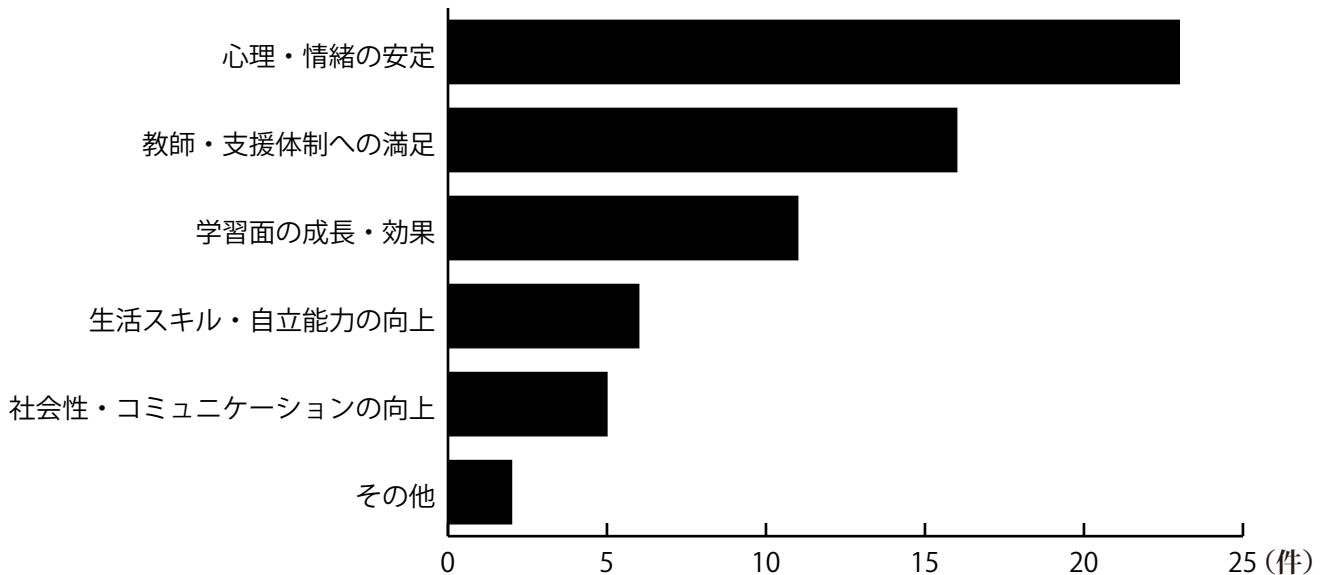


図 7：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 利用して良かったと感じる点

順位	良かった点	件数	割合
1	心理・情緒の安定	23 件	36.5%
2	教師・支援体制への満足	16 件	25.4%
3	学習面の成長・効果	11 件	17.5%
4	生活スキル・自立能力の向上	6 件	9.5%
5	社会性・コミュニケーションの向上	5 件	7.9%
6	その他	2 件	3.2%

子どもの心理面が安定し、落ち着きが見られるようになったという回答が最も多いことがわかりました。自由記述を見ると、その背景には、教師や学校の支援体制が充実していることも明確なものとなりました。

～特別支援教育の種類別の利用して良かったと感じる点～

良かった点	通級	特別支援学級	特別支援学校
心理・情緒の安定	5件	11件	7件
教師・支援体制への満足	5件	9件	2件
学習面の成長・効果	1件	10件	0件
生活スキル・自立能力の向上	1件	4件	1件
社会性・コミュニケーションの向上	2件	3件	0件
その他	1件	1件	0件

～代表的な自由記述～

※いただいた情報を原文のままで紹介しております

<心理・情緒の安定>

- とにかく明るくなりました。鬱が抜けた感じです。家でみんなが受け止めて、すでに変化していた事もあり、どんどん変わりました。通級の先生が全承認してくれる事は本人にとっても心強かったと思います。通級に行ってから、学校のトラブルは一切なく、先生も変化に喜んでくれています。友達とのコミュニケーションの取り方も上手になり、積極的に行事のリーダーなどをやっています。
- 通級が楽しみで、気持ちが落ちている時もそれで頑張っています。あとは気持ちを落ち着ける所としても良かったです。

<教師・支援体制への満足>

- 先生にもよるが、とても密に見てくれて、フォローしてくれて、子供にはとても良い環境だった。
- 個々に合わせた指導をしてくれて、お迎え時には何をしてどのような感じだったかなど、細かな説明をしてくれるので安心して通わせる事ができました。

<学習面の成長・効果>

- 学習面では、苦手な教科はゆっくりと得意な教科は本人のスピードで進めるのでとても良かったです。生活面では基本的に先生の手助けがあるので学校内でも過ごしやすいそうです。支援学級だけ普通の授業だけでなく、学校の外に行く社会見学も多く楽しそうな姿を見るととても良かったと思います。

<生活スキル・自立能力の向上>

- 先生がこまめにみてくださるし、交流とは違い、難しかったら、別の方で教えてくれたりしてくれるし、畑で野菜とりや、他のことをやらしてくれたりするので、助かります。

<社会性・コミュニケーションの向上>

- ソーシャルスキルが少しづつ身についてきたと思います。特に困り事を言葉にするのが苦手で、その力をつけることをメインにやっていただき、成長がわかるように身についていったのでよかったです。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

回答方式：自由記述方式

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

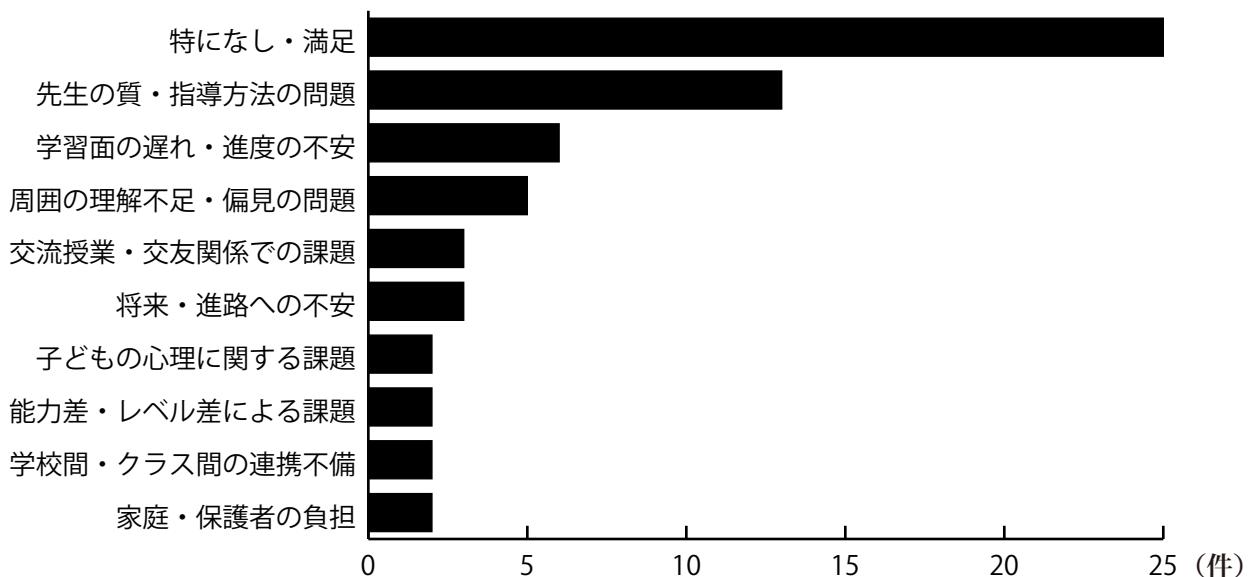


図 8：発達障がい児の特別支援教育の利用に関する実態調査 利用して良くなかった・後悔している点

順位	良くなかった・後悔している点	件数	割合
1	特になし・満足	25 件	39.7%
2	先生の質・指導方法の問題	13 件	20.6%
3	学習面の遅れ・進度の不安	6 件	9.5%
4	周囲の理解不足・偏見の問題	5 件	7.9%
5	交流授業・交友関係での課題	3 件	4.8%
〃	将来・進路への不安	3 件	4.8%
7	子どもの心理に関する課題	2 件	3.2%
〃	能力差・レベル差による課題	2 件	3.2%
〃	学校間・クラス間の連携不備	2 件	3.2%
〃	家庭・保護者の負担	2 件	3.2%

約4割の方が「後悔していることはない」「満足している」と回答されました。良くなかった点として最も多かったのは「先生の質・指導方法の問題」となりました。多くの回答者は「一部の先生が・・・」としていることから、先生による差があることが推測されます。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

～代表的な自由記述～ ※いただいた情報を原文のままで紹介しております

<先生の質・指導方法の問題>

- 最終学年の6年で合わない先生が支援の担任になってしまい、前任の先生の引き継ぎが何もされてなく、子供のことをあまり理解してもららず、子供も1年間体調不良が続いた。
- まれに担当の先生と合わないことがあった。優しく褒めてくれる先生とは合うが、上から指導してくるタイプの先生の時は、通級も行き渋った。でも、ほとんどの先生は、いい先生だったので、問題なく通えた。後悔は、通常級に馴染めず苦労し、その後不登校になったので、通級より、もっと手厚い特別支援級の方が良かったのではないか、ということ。学校の先生も、私も、そこはかなり微妙な線で迷っており、一度、5年生の時、支援学級も体験で行かせてもらったが、本人が「通常級も合わないけど、支援学級もちょっと違う」と言って、選ばなかった。私が住む自治体には、知的の支援学級しかなく、情緒の支援学級がある他市が羨ましかったが、引っ越すことまではできなかった。
- これだけは担当される先生によると思います。1年生では男の先生、2年生で若く経験の浅い女の先生となり、本人が先生の力量を1日で見抜いて帰ってきました。それからは、簡単に想像できるように自分の嫌なことがあれば暴れたり教科書破ったり…それで回避できた1度の経験から大変な日々です。交流の先生が厳しい先生で、交流級での活動の方が自分を抑えて頑張れているようです。

<学習面の遅れ・進度の不安>

- 高学年になり、中学進学が視野に入って来た時、やはり学習の遅れが気になり始めた。
- 良くなかったことは言えませんが、他の生徒さんの障害状況によっては、授業にならないようなことがあったようです。クラス生徒までは選べないのでしょうがないですね。苦しんでいるときはみんなで気分転換したりして落ち着かせるようです。それは、我が子も同じことになるかもしれません。みんなで仲間をサポートすることは、その子の立場になって考えて行動できることであり、思いやりを育む機会かもしれません。

<周囲の理解不足・偏見の問題>

- 周りのクラスの子から見れば、あの子はみんなより出来ない子、ちょっと変わっている子という偏見があると思います。でも、少人数ではありますが、だから優しくしてくれる子もいます。

<交流授業・交友関係での課題>

- 友達が少ないので、そこが悩みになっています。普通級と合流授業があっても仲の良い子がいないので行きたくないと言ったり輪に入れないみたいで困っています。

<将来・進路への不安>

- 今は特にありません。小学校はいいとして、その先はどうすればいい?という漠然とした不安があります。

3章 調査結果の総括と考察

第1章では、就学という大きな節目を前に、多くの保護者が「通常学級」と「特別支援教育」の間で迷い、限られた情報の中で難しい判断を迫られている現状について述べました。

今回のアンケート調査は、こうした迷いの中で実際に特別支援教育を選んだご家庭が、どのような経験をしてきたのかを明らかにすることを目的としています。

調査の結果見えてきたのは、子どもの幸せを第一に考えた保護者の判断と、特別支援教育がもつ前向きな側面でした。

1. 葛藤の先にある決断—「みんなと同じ」から「この子に合った環境」へ

「利用を決めた理由」に関する回答には、多くの保護者が感じた迷いや悩みが表れていました。

「通常学級に行ってほしい」という思いを持ちながらも、最終的には「学校生活での困難さ」や「専門家からの助言」を受けて決断に至ったケースが多く見られました。

共通していたのは「世間の目」や「普通であること」にこだわるのではなく「子どもが安心して学校生活を送れること」を重視する姿勢です。

これは、保護者の希望をあきらめるとい

うよりも、子どもの特性を理解し、その子に合った環境を選ぼうとする前向きな決断であることが分かりました。

2. 特別支援教育がもたらす変化—「安心できる場所」と「自信の回復」

保護者が抱きがちな「いじめが心配」「学習の遅れが不安」といった懸念に対して、今回の調査では、特別支援教育の良い点も多く示されました。

最も多く寄せられたのは「少人数で丁寧な支援を受けられる」「子どものペースに合わせてもらえる」といった意見です。こうした環境は、子どもが安心して過ごせる「居場所」となり、「学校が楽しくなった」という声にもつながっていました。

さらに、子どもの内面の変化も多く見られました。小さな成功体験を重ねることで「自己肯定感が高まった」という回答が多く、学習面だけでなく「自信を持つこと」にもつながっていることが分かりました。

また、これは子どもだけでなく保護者にも影響しています。別の調査（療育施設の利用に関する実態調査）でも「先生に相談しやすい」「親の気持ちも支えられた」といった声が多くあり、特別支援教育が保護者にとっても安心できる支えになっていること

がうかがえました。

3. 留意すべき点と今後の課題

一方で、今回の調査からは、今後の課題も見えてきました。

「先生との相性で1年の過ごしやすさが大きく変わる」という意見は、支援の質が教員個人に左右されやすい現状を示しています。また「通常学級との関わりが少ない」「学習の進み方が気になる」といった声もあり、保護者が学校と連携しながら子どもの様子を見守る必要性があることが分かりました。

特に「もっと早く利用を決めればよかつた」という意見が複数あったことは印象的です。これは、迷った結果、困難が大きくなつてから利用を決めたことへの後悔とも言えます。そのような声は、今まさに迷っている保護者にとって、早めに行動することの大切さを伝えているように思います。

今回の調査を通して、特別支援教育は「特別な子のための場」ではなく、「一人ひとりに合った学びを提供するための選択肢の一つ」であることが明らかになりました。

このような実態を社会全体で共有し、偏見や不安をなくしながら、保護者が子どもにとって最も良い環境を選べる社会をつくっていくことが大切です。人間力認定協会では、今後もこの取り組みを続け、支援の輪を広げていきたいと考えています。

4章 アンケート自由記述のご紹介

本章では、アンケート調査にご協力いただいた皆様から寄せられた貴重なご意見を、一つひとつご紹介します。

本報告書を作成するにあたり、私たちは「いただいたご意見は原則としてすべて掲載する」という方針を基本といたしました。皆様から寄せられた一つひとつの体験談こそが、本調査の根幹をなす最も価値ある情報源であると考えるためです。

しかしながら、全てをそのまま掲載することにより、いくつかの課題が生じることも事実です。まず、全く同じ趣旨のご意見が多数寄せられた場合、それらを全て掲載することがかえって論点を分かりにくくしてしまう可能性がございます。また、極めて個人的な内容を含み、個人が特定されかねないと私たちが判断した一部のご意見については、プライバシー保護の観点から掲載を差し控えるべきであると考えました。

こうした編集上の配慮から、いただいたご意見の大部分を掲載するという形をとらせていただきました。これにより、皆様から寄せられた多様な視点や論点をほぼ網羅しつつ、報告書としての読みやすさも両立できるものと考えております。

ここに紹介する一つひとつの声が、発達障害のあるお子様とそのご家族が向き合う現実であり、喜び、改善への期待、そして深い葛藤といった決して省略されてはならない「生の声」であることに間違いありません。これらの貴重なご意見を原文のままにお届けすることこそが、本調査の価値を最大限に高め、今後のさらなる研究の礎となると確信しております。

読者の皆様が、ご自身の関心に応じて多様なご意見を比較検討しやすいよう、設問ごとに回答をまとめて掲載しております。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

【利用している特別支援教育の種類：通級】

周りの子達と学習の面で差があると感じた。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

通級が当学校に導入されるのをきっかけに校長、担任の先生から利用されませんか？と打診がありました。その時はまだ ADHD、自閉スペクトラム症の診断は受けておりませんでした。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

療育の先生に勧められて、市役所の方々と面談の上。普通の小学校の支援クラスと、支援学校の区別もついていなくて、絶望的になっていたが、公立の学校では先生が 2 人つくんだと考え方を変えて通級を利用することに決めた。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

元々、3 歳児検診で小児科医より「自閉症？」と調書に書かれて発達相談を受け、保育園は他の園児と一緒に過ごしながらも、特性があるものとして対応いただき、学校開放日に一緒に小学校に行き説明を聞いたりしました。それなのに、入学の直前には問題無しとして教委の会議にもかからず！普通クラスで入学しましたが、特別な理由なく学校に行きたがらなくなり、6 月末頃は無理矢理登校させる状態でした。ある日、教室に連れてていき、担任にお願いしたところ、教室の床に寝転んだまま起きず、午前中はそうして過ごした報告を受け、地域の教育相談機関に相談、今までの経緯を話したところ、児童精神科の診察をすすめられ、asd の診断が正式に出ました。診断の有無までは求められませんでしたが、診察を受けたことを条件にようやく支援クラス編入してもらう事になりました。早くから兆候があっても、受け入れるべき市の教育にかかる基準を満たさないと、漏れてしまう現実を知りました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

就学前は小学校の授業で座っていることが出来ない、ついていけないと思い、子どもにとっては特別支援級が望ましいのではないかと考えていた。教育センターで面談、本人の様子を専門家が実際に見て判断、療育センターでの主治医の診断書、発達検査を踏まえ、結果「通級」という通

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

知をいただいた。正直「本当に通級で大丈夫だろうか」「普通級で過ごせるだろう」と心配していたが、実際にやってみないと分からることと、専門家や主治医の判断に一旦委ねてみようと思い、通級を決断。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

入学後、小学校での生活に馴染めずトラブルがあるところに我が子がいることが多く注意を受けたり、授業中に何度もトイレに行ったり、無駄な発言などがあり、担任の先生から通級への打診があり、親としてはこども園で集団行動が出来ないなどトラブルはなく、年長時の担任にも相談しましたが、通級に通うような事はないと言われましたが、こども園と小学校での生活環境がまるで違う事で、子ども自身もストレスが増え、私も判断ができず、学校にいるカウンセラーや専門の先生に判断をあおり、対象児になると言うことで通級に通うことになりました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

小3でグレーゾーンと言われ、診療に通ったりしていましたが、勉強と不登校ぎみな事以外は周りからはわかりづらい感じでした。とてもナイーブで心配症で、悪いことばかりに目がいっていたので自己肯定感も低かったです。ただ、中学を選ぶ際に特別支援級に所属も考え、何校か見学に行って友達の多い近くの中学校ではなく、彼がやってみたかったバレーボール部のある、少し遠い中学に抽選で入りました。最初は怖くて一緒に行ったり、勉強も全然わからず一緒に宿題などしていましたが、毎日学校に行く事が普通になり、部活も休まず行けています。本人の気持ちと必要なサポートがあれば、頑張れるんだなあと思っています。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

まずは落ち着きのなさです。それと、何も話さない子なので、様子を知るためです。学校の中での様子が全く見えないため、通級の先生たちに客観的にみて評価してほしかったからです。担任からのススメで。当時は発達障害と診断されたばかりでした。小学生になってからの困りごとが強く出たタイプで、それまではグレーゾーンとも言われることはありませんでした。（未就園児の頃は怪しいなと思うことはよくありました）感情のコントロールが苦手で、友達とのトラブルが多くなったり学校に対しての不安が多く行き渋りが始まって、私もどうしたらいいのか困っ

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

ている時に、通級というものがあると教えていただき、支援級に入るほどではないと言われ通級を見学し利用する事を決めました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

小さい頃から、変わったところがありましたが、健診などで引っかからず、とにかく育て辛い子でした。友達とのトラブルで怒られる事が多かった事やコロナでのストレスなどで、小学校2年生の時にクラスで落ち着きなく、癪がひどかったり、クラスについていくことが難しく、鬱っぽくなっていました。勉強はついていけていたので、クラスの先生に通級すすめされました。息子の辛さを分かっていたので、通級制度に申し込み、四年生から行けるようになりました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

療育センターに通っていたので、園とも相談して、市の就学相談を受けてみた方がいいとなり、市の就学相談の結果や親の希望で、小学校入学と同時に通級に通うことになった。入学前に、特別支援級と通級を見学し、そこの生徒の雰囲気で、どちらが息子に近いかなど観察した時に、通級の子の方が近いと感じたので通級を希望した。また、特別支援級では、学力に差が生じ、将来に渡って障害者の道しか歩めないのではないか、普通の道を歩める選択肢も残しておいた方がいいのではないかと考えたのもある。ただ、通級に通うことにも少し抵抗があり、いじめの対象になるのではないか、と少し迷ったが、仮に通わなくても皆と違うのでいじめの対象になるかもしれないし、そんな恥や外聞より、子どもが困ることをなるべく減らしてやれることの方が実益があると思ったので、通わせることにした。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

子どもが学校でなるべく困らず過ごせるようにするため。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

息子がこの時期に多動とこだわりが強く、色々な面での身辺自立が出来ていなかった（自分の物を自分で準備できない、や、こだわりの為に出来ないことが多い）のと、周りのお友達から学ぶということが出来ていなくて、大人からの指示が比較的入りやすいという特徴があった為、まず

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

信頼出来る大人から学ぶ=先生となり、特別支援学校を専門の先生から勧められて、納得して行かせました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

現在、特別支援学校高等部3年になる息子がおります。小学校入学の段階で、支援学級に入学しました。発語はありましたが、知的な遅れが顕著にしており、通常学級での学習は厳しいと思い、当初から支援学級を選択していました。決め手は、当時の支援学級の主任の先生と教頭先生が、障害特性についてとてもご理解があることが伝わり、また、学年を超えて、学校全体が支援学級の児童について見守る体制ができていることが感じ取れたことから、我が子を安心して通わせられると判断しました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

地区の小学校に訪問した時、積極的に受け入れようとした意見が全くななく、こういう時はカバーができないとか、ここができないと受け入れは難しいとか、うちより支援学校の方がいいのでは？と言われたことです。ただ、支援学校でも これだけできることが多いのだから、支援学級利用しつつ通常クラスでもやっていけると思いますよ と言われ、どちらからも拒絶されてる印象を受けました。教育委員会に相談に行き、通常学級の、できることを前提とした評価 からマイナスされていくよりは、できることに着目して、励まし伸ばしていく支援学校をえらびました。本人が、どちらに行くと笑顔をなくさないで過ごせるか を重視しました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

うちは兄弟2人診断を受けてます。就学前は幼稚園と支援センターに通っていました。境界域だったため普通級で行けるのではないかと思いましたが、支援級のほうが楽しそうだった（担任の接し方も嫌だった）ので入学もなく支援級にしました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

保育園では加配の先生をつけていただいたが、とても大人数での生活は難しく、小学校入学を前に養護学校に見学、面談をしていただいたが断られたため、特別支援学級しか選択がなかった。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

ASD と軽度の知的障害がある息子です。おそらく対人関係に関してはうまくやっていくかな？と感じていたものの、やはり学校は「勉学」をするところと考えた時に、通級や支援級では難しいなあと考えました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

障がいはわかっていたのですが、いずれ支援学校になるだろうとの考えはあったけどはじめは、支援級と思いましたがどんなところか見ておきたかったので 5 回の体験（20 人ほどいた）に行つたところ本人が帰りたくないと泣いていて、本人が安心して過ごせる場所はここかも知れないと感じ家族を説得した。個人的に支援学校の先生と話をして決断。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

小 1 から在籍する支援クラス、6 名の活動さえ難しく、息子自身「学校が怖い。行きたくても居られない。何が怖いか分からぬ」と言っていた。小 2 で一度検討した時は、支援学校の人数が少なすぎて、もっと人がダメになるかもしれないと保留にしていたが、4 年生まで様子を見ても、難しさや生きにくさは変わらなかった。このまま地域中学校の支援クラスに進んだら、もつと人数が増え、支援が少なくなる。今以上に生きにくくなり、今ある良いところも含め、全てを潰してしまう可能性があると思ったから。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

通常級にいたが、気持ちのコントロールが難しく、特に怒りのコントロールに反応が強く、部屋を飛び出したり二階の教室から飛び降りようとしたりしていたので。また、学力についても遅れが見られたので。（担任は、注意が多くなるからと、一学期後半から一番うしろの席に置き、何をやっていても知らん顔だった）

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

・子供本人が、人数が少なく落ち着いた環境の中で過ごしたいと望んだため。・親目線として、子供が幼稚園生の時に通っていた療育先で、日によって小集団（4～5 名）でも活動が難しく感じることがあったため。※活動が難しいと感じた理由→教室の中に入ることができない。入れて

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

も、床に寝そべったり、机の上に伏せたりして活動に参加できない。そのため、個別にサポートが必要であると感じた。（個別であれば落ち着いて活動ができる）

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

医師2人と保健師1人にそれぞれ相談をして3人共に支援級だと答えました。その中でも保健師の話は子どもの状態と、通う学校の支援の仕組みを分かりやすく説明もありました。学校見学もさせていただきました。保健師の言葉で子どもに安心できる場所作ってあげてです。そこが支援級になると思い決めました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

福祉施設に通っていて、年長の時に公立保育園の障害児枠に移ったのですが、その際にうちの息子は支援校ではなく、地域の支援学級に進む方が良いと言われたので。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼稚園の時から登園しづりがあり、原因として人が大勢のところが苦手なのと、音がうるさいのが苦手というのがありましたので、少人数の支援学級から始めようと思いました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

保育所の頃からみんなと同じことをするのが難しく、療育を受けていた。担任や支援センターの人からも勧められた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

我が子が安心して学校生活を送れると思ったから。学校に楽しく通ってほしいから。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

4歳から発達センターに通い、個別心理、言語で療育を受けていました。保育園では担任の先生に「普通級でいいのではないか」と言われたのもあり、通常級で入学しました。集団が苦手なのか、授業中に教室に居られなくなり、2学期は校長室に登校、校長先生と過ごしていました。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

学校に居場所がない、集団生活をしてほしいと思い、特別支援級に転学を決意しました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

集団での一斉指示が入りにくい、感情のコントロールが苦手（ちょっとした事で怒る泣く）、書字に著しい困難があるため。特別支援学級の情緒クラスに所属。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

子供本人の個性や得意な事を伸ばしてあげたい思ったからです。特に支援級の先生のお話を聞いて、決断できました。子供の成長のためのカリキュラムや工夫であったり、広い視野を持って育む姿勢と熱意が決断に躊躇していた親の気持ちを後押ししてくれました。世間の目を気にしていましたが、我が子に向き合うんだと改めて大切な事に気付かされました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

2年のときの担任に息子の特性や今できること、難しいことを伝えづけましたが折り合いがあわず…担任の先生は彼はできる子ですと一学期の最初は言っていたんですが、6月あたりからできませんね…みたいな感じで言われ、支援の仕方がない分からないようで。他の放デイの先生方にも見てもらいましたが…先生たちも、お母さんちょっとあの先生じゃ厳しいかもと言われ、最後に、支援級と通常級の先生同士が連絡を取り合はず、なぜなのかと聞いたら、お互いの立場があるため、プライドがどうたらこうたらと言い始めたので、もうこの先生には、無理だと判断しました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

2歳半検診で相談し、診断がおりました。幼稚園でも加配をお願いしており、就学相談を経て入級しました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

通常学級で配慮が少なく、1年利用した通級の先生から支援学級を勧められたため。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

保育園から不登園になっていました。学習面では鉛筆を持って書くなど手や指先を使うことが苦手で、日常生活では落ち着きが無かった為。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

卒園式、入学式の様子を見ての印象と、緊張から学校の校門の前で身体がかたまってしまう様子、運筆が苦手で、鉛筆を持つだけで「できないできない」と拒否してしまう、授業中、校庭の虫が気になり全体への指示はほとんど受け取る事ができないという状況を受けて、通常級で過ごす事が、自己肯定感の低下や自信喪失につながる、また緊張や不安から学校に行けない事態になる可能性が高いと感じ、一年生の前期に、児童専任の先生、スクールカウンセラーの方への相談を経て、特別支援級の利用を希望する流れになりました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

病院の医師にはっきりと支援級の方が良いと言われていた。その為、入学前に見学に行き、その際一緒になった女の子のママと話をし、賛否はあるかと思うが一緒に支援級でやっていこうよと誘ってくれた事が大きかったかなと思う。頭では支援級の方が良いのは分かっていたが、やっぱり普通級に行かせたいと考えてしまうこともあったので、話を聞いて貰って先輩ママの話を聞いて、気持ちの整理も出来たのかなと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

勉強についていけなくなり不登校になりかけた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼稚園で先生の話を聞く場面で椅子に座っていることができず立ち歩いたり、教室をでてしまったり集団行動が難しかったこと。コミュニケーションが苦手でお友達とトラブルになりやすく、癪癥を起こす、ものを壊すなど迷惑をかけてしまうことが予想されたため。

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

本人がお姉ちゃんと一緒の学校が良いというので就学相談は受けずに通常級で入学しました。文字も読み書き一切できず算数も一切できなかつたので学校が柔軟な対応をしてくださって一年の1学期から週2で通級に入れてくれました。3年生で不登校になってしまい4年生からは特別支援級に転校しました。私の場合特に決断はした事なく、本人が辛いなら本人が楽な方へ安心できる方へと進んで行った感じです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

知的には問題なかったため支援学校の選択肢はなかったです。通常級を選ばなかったのは、子供の命を一番に考えての判断で主治医から意見書を見せられた瞬間、特に悩まず決めました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

小1のときは担任の先生との相性の良さや、1クラスの人数が少ないこともあります、通常級で楽しく過ごすことができた。小2になるとき、先に小5兄が支援級に転籍することになったため一旦通常級で進級。しかし感情のコントロールができなくなることが増え、時には学校の外へ脱走することも。担任の先生が息子につきっきりになり、ほぼ毎日連絡帳に担任からの報告が入るようになる。息子も辛うだったで急いで転籍を申し込み、小2の2学期から支援級にお世話をっています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼稚園入園時に自閉スペクトラム症と診断され加配を付けていただいた為、年長では加配の先生の手を借りずとも過ごせるまでになっており市の担当者から普通級を勧められました。しかし、以下の理由から特別支援級に入学させました。1. 環境の変化、予定の変更に弱いこと(癪癱、トイレの失敗)2. 自分の気持ちを言葉で表すことができないこと 3. 理解できているふりをしてしまうこと 4. 事前に体験授業を受けさせてもらい本人が希望したこと。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

診断がおりている児童で、あきらかな特性がある場合は、根本的に交流級には入ることはできま

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

せん。本人の心や負担を考えても必ず支援は必要です。ただし、インクルーシブ中心であるため、支援学級でも基本的には通常学級にも在籍しています。知的レベル的にも養護学校〈特別支援学校〉入学は認められず、今に至ります。親としては、養護学校でのびのびと音楽や体育など、遊びの延長線上で学ばせてあげたかったですが、叶いませんでした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

人に合わせることが苦手な娘に、人に合わせて授業を受けることを強いるのは違うのではないかと思ったから。協調性は大事だけど、今はそれを教える段階ではなく、学校という新しい環境に慣れることが第一だと判断したため。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

決断したというよりも、むしろ「支援学級をお願いします」という感じだった。理由は、・人が多い場所が苦手・お友達との交流が苦手だったから。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

小学校に入学してすぐに、「なにしても注意される」「なにもおもしろくない」「どうやって過ごしていたらいいかわからない」「くだらない人生に感じる」「もう死にたい」「俺なんて何をやってもだめなんだ」と言い始め、毎日をつらそうに過ごすようになったためです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

とにかく沢山の方に相談して、子供の状況を伝えて一緒に考えてもらいました。（保育園の先生、小学校の先生、元小学校の先生、発達障害児を持つママ友…沢山の方に話を聞いてもらいました。かなり悩み、私の希望は普通級という気持ちもあり決めるまでは苦しかったですが、「子供のために一番いい環境は？」という小児科、児童精神科の先生の意見が決め手になりました。）

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

2歳頃から療育に通っており、こども園と児童発達支援を併用していました。もともと支援級を選ぶつもりでしたが、年長の時に園の担任からも「小学校では支援級を考えてますか？見学とか

Q5. 特別支援教育を利用するに至った理由

できますけどしますか？」と言われ、支援級に通う事を伝えました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

学力にそれほど問題はないものの、他の子の授業の妨げになる行動をする可能性があることを考慮して支援級を利用することにしました。本人も支援級に満足していて、楽しく通えているのでいい決断ができてよかったです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

就学前から小児科でグレーゾーンとして通院・相談しており迷っていた。就学前検診の様子から市の方でWISC検査を勧められ、その結果から支援級を勧められた。説明をよく聞き、子にあつている学習環境だと納得し支援級を決断した。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

通常学級で担任の先生の話にパニックになり、机の上の物を全て払い落とす、泣き叫ぶことがあったため。小学校入学前から、友達への関心がなかったので、通常学級か特別支援学級か迷っていたこともある。限界かなと思った。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼児期に集団生活の苦手さが顕著になってきたことで、保育園から児童発達支援事業所の少人数制のところへ転園しました。保育園の先生も大人数を集団の中では手厚くフォローすることは難しく苦労されており、本人にとって過ごしやすい環境にしてあげた方がより良いのではと思ったからです。今は小学生になり、特別支援級でお世話になっています。

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

【利用している特別支援教育の種類：通級】

勉強を出来るところからする学級があってそれに行って勉強するよと伝えた。本人はあまり理解はしていなかった。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

先生が2人いる。国語と算数は個別に詳しく教えてくれる。教室が居づらかったらこっちの教室にいられるよ。など。よくわからないながらもすんなり受け入れてた。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

そのまま伝えました。週に一度、こういうところで勉強したり遊んだりするよ、と。反応は、そななんだ一くらいでした。ただ、初めての場所は苦手なので、最初はママもいるから大丈夫だと話しました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

障害については話しませんでしたが、1年生時の通学しぶり、みんなと一緒に同じ事をする困難さがあるため、また、児童精神科の療育訓練に2ヶ月通ったことから、そうしなければならないと言い聞かせました。ただ、8年前のため、あまり覚えていません。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

未就学時、月1回、約1時間、療育センターで作業療法を受けており、就学になると基本受けられることができなくなるため、その代わりに普通級の授業を抜けて、優しい先生たちが作業療法でやっていたようなことや、好きなパズルや体を動かしたりするよ、と伝えた。本人はイメージしづらかったようで、また小学校自体「行きたくない」と入学前から口にしていたため、乗り気ではなかったと記憶する。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

通級に通うことはしっかりと本人に伝え、了承してもらいました。早退をして通級に通わなくていけないことがネックで、その事で周りからの目やいじめ等に繋がらないか心配だったのですが、

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

お友だちに何か聞かれたら、本人には習い事に通うために早退をしていると言うように言いました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

あなたにとっての居場所を作つておくと困った時に助けてもらえるよ。大好きなバレーも苦手な勉強もみんなに手伝ってもらいながら続けられる方法を考えよう。って伝えました。毎日の荷物が重くて長い距離を歩いて行き帰りするのが、しんどかったんですが彼は荷物を置いて帰るのは嫌だと思いました。私にしたら、荷物を置いて学校に行けるならその方がいいと思いましたが、彼は自分だけするをするみたいで嫌がりました。先生が彼の事を尊重してくれて、彼の気持ちを大切してくれました。しばらくは自転車で送ったり、バスで通っていましたが、体力がつき歩いて下校する日も増えました。今は背番号ももらい、前向きに登校しています。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

最初はなんのことか分からず、無反応でした。1年生の後半から、週2回自分だけ授業を抜けて行くのが嫌だと言い出しました。今は、逆に学校が楽しくないので、週2回通級に行きたい！と言っている感じです。先生が認めてくださる点、自己肯定感も高くなるので、居心地が良いのでしょうか！

【利用している特別支援教育の種類：通級】

先生と1対1で、○曜日の○時間目に、遊びながら学校のルールを教えてもらえるよ。困ったことがあればその時に先生に伝えるよ。と説明したら、他のみんなが授業してるので自分だけ他のことができる喜んで受け入れていました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

友達の作り方、相手への声のかけ方、気持ちの伝え方を先生に練習相手になって貰ってやってみよう。自ら挑戦したいと積極的でした。

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

【利用している特別支援教育の種類：通級】

通級に行くと、先生が気持ちを聞いてくれて、とても楽になるよと話しました。本人はそこまで抵抗がなかったようです。クラスのみんなにも先生から苦手な事があるから、週に2時間だけ他の学校に行って勉強すると伝えてくれました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

全員通うわけではないので、なんで僕だけ？という疑問はやはり持たれた。そこで、なるべく前向きに、明るく説明した。通うと役に立つよ、苦手なことを練習して得意にできるんだよ、通えるのはラッキー、お得なんだよ～等と伝えた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

細かいことを伝えると理解出来なくてパニックを起こすので、見学に行った学校に行こう！とだけ伝えました。本人は見学をしていたので納得していました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

小2から地域の学校の支援級で通い、中学から支援学校に通いました。中学部に入学するときに、お手伝いしてもらわないとしんどくなるから、お手伝いをしてもらえる学校に行くよ、と伝えました。その時子供は、わかった、と理解してくれました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

当時の息子には、支援学級に通う意味や通常学級との違いなどは理解ができておらず、特に支援級に…という話はしていませんでした。本人にとっては、支援学級云々より、幼稚園から学校の移行の方に抵抗があり、入学から一ヶ月くらいは学校へは行くものの納得していない様子でした。幼稚園に用があり行った時に自分の名前がないことを知り、初めて自分の所属が小学校であることを認識しました。それからはスムーズに通え、6年間、ほとんど皆勤賞でした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

どっちが楽しく通えそう？と、ストレートに聞いて、本人にも迷わせました。どう？わからない

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

ことあるかな?って、聞きながら本人がこっちって決めるまで、話し合いました。なっとくして?だとおもうので、楽しみにしていました。自分が決めた!って自信もつことができていたように思います。

【利用している特別支援教育の種類: 特別支援学校】

ちゃんとは話してなかったと思います。○○組に行く?くらいな話だったと。嫌な感じもなくすんなり入っていました。

【利用している特別支援教育の種類: 特別支援学校】

保育園のお友達と同じ学校だけど、○○(名前)は少人数のクラスでお勉強するよ。

【利用している特別支援教育の種類: 特別支援学校】

幸い、幼稚園のお友だちも広範囲から来ていたため、それぞれ就学先が異なっていたため、本人もさほど気にしていませんでした。

【利用している特別支援教育の種類: 特別支援学校】

「4年生の今まで、学校怖いは変わらなかった。このまま中学校に行ったら人数が増え、きっともつと怖いが増える。2年生の時は、これ以上小さい枠にしてしまったら、広げるのが難しくなるんじゃないかなと思った。でもね。違ったんだと思う。決断が遅なってしまって、ごめんね。これからは、小さい枠から広げていこう。6人が多いのなら、もっと人数の少ない所でいいじゃん。それが広がったら良いし、まず小さい枠からやり直そうね。」と伝えました。本人が1番苦しかったし、全て感じ分かっていたので感納得し、むしろ嬉しそうでした。

【利用している特別支援教育の種類: 特別支援学校】

事前に学校の先生にお願いして始業式の写真、体育館、教室、建物、玄関の写真を頂き、始業式の流れをイラスト付きでもらう。スムーズに始業式に参加出来き、途中で座っているのが苦痛になったか落ち着かなくなったので、一度体育館から出で、クールダウンの為校舎と一緒に散歩する。再度始業式に戻る事が出来た。(事前に先生に離席するかもと伝える)

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

お試しで、支援級に行ってみよっかと声をかけた。支援級には友達もいたのでそんなに、嫌がらずいけた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

子供に「人数が多い場所（普通級）と少ない場所（支援学級）どちらで過ごしたい？」と聞いたら、迷わず「少ない場所！」と答えた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

学校見学は子どもと行ったので、「あそこに行くよ」と軽く言っただけだと思います。反応もなかつたと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

最初は抵抗があったようですが、担任の先生が皆を連れて支援学級に見学に行き、勉強がしんどい子はここで学ぶ事を教えて下さったので、割とすんなりとなじめました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

あまり伝えず、ただ少ないところでお勉強しようね、くらいでした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

住んでいる地域の小学校は1クラスしかなく、保育所で一緒だった子どもたちがそのまま入学する、ということもあり、同学年に同じように支援を受けている児童も数人いて、みんな小さい頃から一緒にいる子たちなので、抵抗はなかった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

知的障害がある子どもなのでそこまで他の子ども達との違いを感じていなかった。小学校入学時に支援学級だったため、それが我が子にとっては小学校のはじまり。小学生になるんだよ！保育園の時のお友達とは違うクラスになるけど一緒に小学校だよ。と話していたのですんなり受け入

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

れていた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

「お勉強を頑張るように○○学級に行こう」と伝えました。校長先生が時々支援級に連れて行ってくださっていたのもあり、すんなり馴染めました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

障害については触れず、上記の行動傾向をオブラートに包んで伝えた。自覚があるらしく、抵抗するような事は無かったが、一部の友達から偏見的な事を言われるので、中学では普通級を希望している。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

楽しく学校に行ってお友達と遊びたいという我が子の純粋な気持ちを聞いて、お母さんお父さんの考えをお話しました。子供が具体的に実感できるように、少ない人数のクラスで周りがザワザワしないで好きなお勉強ができることや、困ったときに先生とお話しやすいこと、通常級との交流もあってさらにお友達が増えること等、いくつかメリットを伝えました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

落ち着かなくなったときに通えるようなクラスにもはいっとおこうね。こどもなりに何となく理解していたと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

入級したものの、本人はクラスのみんなと学びたいという思いから通常級で過ごし、声掛けを多めにしていただく形になりました。本人には障害の有無などは伝えずに、苦手なところとか、少ない人数でお勉強するんだよーっと説明した程度です。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

ひたすらメリットについて説明した。転校を告知したはじめの1ヶ月は、少し荒れた状態が多く、

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

頻繁に泣いていた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

子どもが苦手と感じている部分をあげ（文字を書くのが苦手など）支援級に通うことで自分のペースで進められることを主に伝えました。子どもの反応は「助かる！」「そっちの方がいい！」という事を言っていました。ただ、1クラスの人数が少ないため友達を作るのに少し頑張らないといけないかもと伝えたところ嫌そうな反応をしていました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

○○くんが楽しく学校に行けるように、ママが先生や学校にお話してみるね。（児童専任の先生とスクールカウンセラーに相談）??いまの1年1組じゃないもうひとつのお教室があって、そっちだと、○○くんのペースでお勉強ができるみたいだから、行ってみる？ ??「行ってみたい。」という反応でした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

見学に行った際、今日行ったクラスでお勉強するのと、普通のクラスでやって行くのどっちがいい？と聞いて、本人も支援級が気に入っているのか、支援級が良いと答えたので伝えた訳でも無い。その時はちゃんと理解していたのかわからないが、楽しみな感じ？だった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

自分のペースで勉強が進むし周りの声や書く音も気にならいうようになるよ。って言って体験に行かせたら支援級がいいとなった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

入学前は学校に通いたくない、ランドセルを買わないで、と言っていた。特別支援学級に体験に行き、支援の先生とプレイルームで遊んだり先輩たちと交流して学校はたのしい場所と体感できた。学校いってみようかなと前向きな気持ちになることができた。幼稚園でも補助の先生がついてくださっていたので、教室で隣に先生がいても特に違和感なく受け入れていたように思う。

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

当時 1 つ上の学年な他害があるお子様がいて「乱暴な子がいるところなんて嫌！」と、言っていて本人が納得しないまま転校しましたが卒業する頃には「もっと早く行つとけば良かった！」と、言ってました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

○○はお兄ちゃんみたいに沢山の人と一緒に勉強するよりも、少ない人数でお勉強するほうがあってるよ！って教えてもらったら、（支援学級）こっちで 1 年生は過ごしてみるのはどお？と聞きました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

「少ない人数で過ごしたほうが気持ち的にラクだよね？」「今（通常級）よりも先生がじっくり見てくれるよ」と伝えました。息子はそれを聞いてホッとしていたし、支援級には兄がいることもあり不安は少なめだったかと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼稚園のお友達とは違う教室に通うこと。そのクラスには、2 年生～6 年生のお友達がいて一緒に授業を受けることを伝えました。話だけではピンとこないと思い、実際に授業に参加させていただきました。授業の後も上級生が教室内を案内してくれ、本人は楽しかったと言っていました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

子どもは自分が支援学級である、普通学級であるなどの理解はしていません。どちらのクラスにもお友達と先生がいて、自分の居場所はふたつある、という認識だと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

入学する前に特別支援級を見学し、本人に体験させました。言葉で伝えるよりも実際に見た方が理解しやすいとおもったからです。「今日見学した所に通いたい？」と聞いたら、行きたいという応えだったので特別支援級にしましたが、本人は通常学級と特別支援学級の違いはまだ理解し

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

ていないかもしれません。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼稚園生の時から、自身の特性について、共に話し合ってきた為、ストレートに「○○学級にお世話になってみよう」と伝えた。なお、入学前に【○○学級】に何度か通い、そこがどのような場所なのか、子どもが知れるよう配慮した。それに対しての反応は、可もなく不可もなく、という感じ。というのもやはり、実際に入ってみないとわからない、というのが実情だったように思う。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

1年生の夏には、特別支援級に転籍できるまでの手順を踏み終えましたが、本人がなかなか「みんなと違うクラス」へ行くことを受け入れられませんでした。転籍はしないまま、学校側が本人に合わせた過ごし方を、試行錯誤し続けてくれました。3年生に上がるときに、ようやく「自分の希望する過ごし方に、少しでも寄せられる場所」として、本人も受け入れることができたため、転籍に至りました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

今のあなたにとって、1番楽しく通えるかなあとママが思うクラスにしたよ。保育園のお友達とは違うクラスだけど、あなたが行きたいと思ったらいつでも遊びに行けるし、毎日会えるからね。と伝えました。 保育園の時から行けなくなることがあったので、苦手なお友達と離れられることには抵抗はなかったです。仲のいいお友達と離れることには抵抗がありました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

自閉症で軽度知的障害もあるので、伝えてあまりよく意味はわかっていませんでした。自分は国語と3数だけこの教室でやるのだなあと思った程度だと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

入学前に実際に支援級のクラスを見学させてもらい、授業を体験させてから本人にどう感じたかを聞きました。ここで勉強したいと話していたのでスムーズに受け入れてもらいました。

Q6. 子どもに特別支援教育を利用することをどう伝えたか

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

もともと本人が支援級教室で過ごしたい（人数が少なくて静かだから）、ということは言っていたため、「支援級の教室で過ごすのはどうかな？」ときいてみたときには、「そうしたい！」と言っていました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

「勉強」は落ち着いて楽しく出来るように支援級、他の「行事やイベント」は○年クラスでみんなとやるよ、と伝えた。まだ入学前だったのでイメージ出来ていなかったため、すんなり受け入れていたように思う。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

人数が少ないところで自分のペースで学習できるクラスで体験してみる？と伝えた。体験を通して、本人もこちらが良いと言ったので。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

幼児期だったので、あまり伝えるという感じはありませんでした。児童発達支援事業所の方も少しづつ慣らしで時間をのばしていったりしたので、わりとスムーズに切替られた方だと思います。

Q7. 利用して良かったと感じる点

【利用している特別支援教育の種類：通級】

本人が通級に通うようになって、通級教室自体は楽しいと言っていてそこでしている勉強は上手く理解してなしているなど感じました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

時間配分や、得意な事、苦手な事、気持ちの切り替え方等様々な事を学ばせて頂いています。小学2年生の時、特別支援の知識が豊富で資格を持つ担当先生に出会い、それまで親として認めたくなく逃げていた、療育を勧められ、専門医に受診。その時に診断を受けてコンサータを内服するようになりました。息子は学校にもクラスにも馴染めるようになりました。悩み事は多々ありましたが、その都度学校の先生方が親身になって助けて下さいます。息子が毎日学校に通えているのは通級教室のおかげだと思っています。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

通級に通うことで、良い意味で先生から支援が必要な子という目で見てもらうことができたと思います。言われなければわからないくらい、第三者からは普通だと思われる所以。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

小学校通学時は、親への依存が高く、思い通りにならないと癪癥を起こしたり、人に合わせた行動ができませんでしたが、小学校における支援クラスの担任が良い先生だったため、息子の苦手を無理強いせず受け入れながら、できることを増やし、普通クラスの担任と連携を取りながら、クラスに上手く馴染ませていただきました。イジメもなく、クラスが特性を理解して受け入れてくれたのはありがたかったです。一時は、児童精神科のdr.に、成長して手に負えなくなる前に家族の元を離れて1年入院させた方がいいとまで言われましたが、入院することなく、大きなトラブルもなく小学校を卒業しました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

とにかく本人が初めて普通級を抜けて受けた後「楽しかった」とのことでの時間が楽しみになりました。その時間のある曜日は積極的に登校していました。先生の存在が大きく、「優しい」「自分の事

Q7. 利用して良かったと感じる点

を見てくれる」「不安でも手を差しのべて一緒にやってくれる」という安心感もあり、「先生、大好き」と言って取り組んでいる。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

個々に合わせた指導をしてくれて、お迎え時には何をしてどのような感じだったかなど、細かな説明をしてくれるので安心して通わせる事ができました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

彼を尊重し、方法もいろいろ考えていただける事。連絡帳で家での様子を伝えたり、学校の様子が聞けて親の不安が限りなく少なく、すぐ解決する事。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

やはり、親以外の大人が専門の知識を持って接してくれるのが安心しました。親もわからないところばかりですし、親には見せない顔もあるので、そのあたりを丁寧に日誌に書いてもらえて助かりました。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

ソーシャルスキルが少しづつ身についてきたと思います。特に困り事を言葉にするのが苦手で、その力をつけることをメインにやっていただき、成長がわかるように身についていったのでよかったです。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

サ行の発音が上手く言える様になり、からかわれる事も少なくなりました。相手の気持ちを表情から細かく汲み取れる様になり少しづつだが、怒りではなく、自分の気持ちを口から伝えれる様になった。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

とにかく明るくなりました。鬱が抜けた感じです。家でみんなが受け止めて、すでに変化してい

Q7. 利用して良かったと感じる点

た事もあり、どんどん変わりました。通級の先生が全承認してくれる事は本人にとっても心強かったですと思います。通級に行ってから、学校のトラブルは一切なく、先生も変化に喜んでくれています。友達とのコミュニケーションの取り方も上手になり、積極的に行事のリーダーなどをやっています。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

通級は、発達障害の子が過ごしやすく、楽しく苦手を克服できるプログラムを実施してくださるので、本人が気に入って、楽しく通うことができた。通常級の方は、合わなくて登校渋りがあつたが、通級の日は嫌がらない等、いい効果があったし、コミュニケーション等楽しく学べて役に立ったと思う。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

専門の先生なので、パニックを起こした時の対応や、生活の細かい部分での自立が出来るようになり、本人も受け入れてもらえる安心感もあって、ほとんど休むことなく通うことが出来ました。勉強も個人レベルで対応していただけたり、（ただ小学校のようにしっかりとした勉強ではありません） しんどい授業には教室に入れるようになるまで、じっと座っていられるようになるまで、根気強く対応していただきました。特別支援学校はまず生活中心という事を理解していただきたいと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

人数が少ない分、先生もよく見てくださいました。また、自分と気の合う友達が出来るようになり、毎日が楽しいと言って、通ってくれるようになりました。小学校の時はなかなか自分から学校の話しましてくれませんでしたが、中学校に行ってからは学校での出来事を自分から話してくれるようになりました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

学校全体で支援学級の子ども達を見守る体制が徹底しており、通常学級との交流も本人の実態に合わせた形で経験を積み重ねてくださいました。自己肯定感を損なうことなく、息子が息子らし

Q7. 利用して良かったと感じる点

く、穏やかに安心して通える環境を作ってくださいました。気持ちが安定して過ごせることもあり、学習面も本人なりに成長することができました。結果、入学当初では想像もつかないほどの成長を遂げてくれました。また、中学の支援学級へ進学してからは、将来を意識する学習も取り入れられ、本人の実態に合わせて、必要な学習、経験の積み上げをしてくださったことです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

本人の成長に合わせて進めてもらえるので、できないことを、怒られたり注意されて落ち込むことが無かったと思います。もちろん危ないことや人を傷つけるようなことをしたり行ったときは、目線を合わせた指導をしていただけてました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

本人も楽しいですし親もピリピリすることもなく安心します。支援級は少人数ですし一人ひとりを見ていてくださいました。交流級の先生に「これは治りますか？」と言われたときに支援級にして良かったとおもいました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

穏やかに過ごせているかなと感じています。また勉学面も丁寧（過ぎるかな？）にしてもらえていると思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

保護者と先生の距離も近く感じ家庭と学校の共有が持てた。家庭で出来ないことが学校で出来たり（逆も）を話今後どうしたら良いか話せた。小1から将来（進路、就職）の話もあり意識が変わった。親同士、色々苦労してきたり勉強してきたりしているせいか良い距離感があり良かった（子供の事を詮索しない、それぞれ特性が違うので否定しないなど）

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

地域にもよると思いますが、息子には知的障害がないので、知的障害が無くとも入れる支援校は、病弱児校になります。様々な病気の子が居ます。発達障害だけの子も居ますが、全く動けない子、

Q7. 利用して良かったと感じる点

話せない子、いろんな管や器具をついている子。初日、見ただけで困り感があるのは自分だけじゃない。むしろ自分は動けるし、出来る方だと直ぐ感じた様子でした。いろんな子が居て、いろんな困り感がある事を知り、自己肯定感もあがりました。困り感はお互いさま。偏見もないし、困って居る人に手を差し伸べる優しさが身につきました。何より病児校なので、支援校の中でも手厚い、個々に寄り添った支援が受けられます。今でも毎日、この学校に入って良かったと思います。当たり前がない世界。感謝の中で生きているので、息子にも感謝の心と優しさ、身につきました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

見通しを持ってイラスト、写真を提示し本人に分かりやすくしてくれる。クラスの子のマネしたり少人数なので丁寧に教えてくれる。我が子はクールダウンが必要で落ち着かんくなったり疲れると校舎の中を散歩に連れて行ってくれて有り難かったです。先生方は少しの事でも常に誉めてくれるのでいつもニコニコで学校に通っています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

お試しで4年生の途中から行ったが、支援の必要な子に対しての対応に柔軟な先生だったので、本人の頑張りも受け止め、そこから本人と相談しながらステップアップしてくださったので、本人もトラブルもなく、穏やかにいけた。落ち着きを取り戻し、学習についても前向きになった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

普通級ではそうはいかないと思ったことも、先生が個別に手厚くサポートしてくれる。問題点や困ったことがあれば、即座に対応してくれるので、そのような環境にとても感謝しています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

通っている学校の支援級は3種類あって交流もしています。学年も関係なく身体の障害の子どもと一緒にハロウィンパーティーや野菜等植えたりして、それが当たり前の生活です。年下の子には優しく声かけしたり教えたり、上の子とも仲良しです。そこには差別などありません。普通級では出来ない経験できて良かったと思います。

Q7. 利用して良かったと感じる点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

先生がこまめにみてくださるし、交流とは違い、難しかったたら、別の方で教えてくれたりしてくれるし、畠で野菜とりや、他のことをやらしてくれたりするので、助かります。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

多動が酷かったのですが、用務員さんが一本足の椅子を作ってくれたり、担任の先生が、作業所などで使用されている ADHD 用のクッション等を購入頂き、ある程度落ち着いた事。先生が、家庭でしつけている事を同じ目線で実践して頂けた事

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

やはり少人数なので落ち着いて自分の気持ちを伝えられるようです。また休み時間に何をしていいかわからない子どもなので、先生と遊んでもらえるのはよかったです。学習面でもひらがなを読めない、書けないので、個別に指導してもらえてありがとうございます。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

小学生になると、出来ないことがハッキリしてくる中、自分から「分からない」「出来ない」と言えないで、通常級では置いていかれるだろうと簡単に想像出来た。支援級に入れたことで、授業も手厚いサポートや、本人に合った方法などを考えててくれて、それ以外にも自立活動や生活単元学習などを取り入れてくれている。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

勉強にしろ、生活にしろ、我が子にあった課題をたてながら見てくださるので子どもにも無理がなく負担が少ない。個人面談や毎日の連絡帳でのコメントなど、とても細かく様子を伝えて下さるので安心。専門家の先生との面談なども希望すればできる。1年生～6年生までが一緒に生活するので様々な刺激や学びがある。支援学級の子ども達は皆優しい。温かい雰囲気の学級です。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

国語と算数を支援級で受けている。少人数でしっかり教えて貰えるの点は良いと思う。ただ、先

Q7. 利用して良かったと感じる点

生によって大きな差がある。発達障害に理解のある先生ならいろいろな対応を考えてくれるとと思う。集中が続かないでの、適宜休憩を入れてもらったり、視覚情報で指示を出してもらったりできる。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

いざ転校するまでは、理解ができていなかったと思いますが、支援級に通い始めてからは、毎日笑顔で授業のことや3年生から習う理解社会が楽しいと、学校の生活について自らお話してくれるようになったときは、嬉しかったです。これは、親の頑張りでもなんでもなく、子供自身が努力し成長したことであり、子供の順応性は無限大だと、感心しました。また、そのように成長をサポートしてくださった先生方のおかげであり、通級よりも毎時毎日サポートしていただける環境が良かったと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

彼のペースで進めること。体調や、調子で、交流や支援級かでクラスが選べたりして、彼の逃げる場所ができたこと。先生と発達障害の話ができる事。配慮してもらえること。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

今までのお友達と離れてしまったこと以外、良いことばかり。先生や学校の対応が違いすぎて感動した。何においても事前説明の配慮があり、教室移動やテストの時間の配慮、宿題や板書の融通、時間がかかるてもきちんと息子の話を聞いてくれるなど。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

学習面では、苦手な教科はゆっくりと得意な教科は本人のスピードで進めるのでとても良かったです。生活面では基本的に先生の手助けがあるので学校内でも過ごしやすいそうです。支援学級だけ普通の授業だけでなく、学校の外に行く社会見学も多く楽しそうな姿を見るととても良かったと思います。

Q7. 利用して良かったと感じる点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

挙げきれないくらいたくさんあります。・個別に指導や様子を見てもらえる。一年生のときは、クールダウンが必要なタイミングも多く、虫の図鑑をみてクールダウンの時間をとらせていただいていたようです。鉛筆を持つのもやっと、という時期には、読めるか読めないかの文字に、はなまるをつけて下さり、上達の具合に合わせて、青丸や三角をつけて下さるようになりました。(2年生まで×やチェックはつけずにいて下さいました。)本人なりの成長に合わせて、宿題も、任意から始まり、自分で宿題の計画を立てて実行する事ができるようになりました。・通常級(交流級)に参加する時に支援級の先生が本人の成長度に合わせてサポートに入ってくださる事で学校生活全体に安心感が生まれる。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

本人のペースでしっかり基礎が学べるところ。出来ること、いい所を見つけてもらったり、伸ばしてもらえる。本人も支援級で良かったと言っている。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

不登校気味な子なので休んでも勉強がどんどん進むってこともなく良かったと感じる。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

授業中立ち歩いたり、全体への説明を聞けていないことがあるので、支援の先生に補助していただけるのが助かる。普通学級で難しい教科は支援級でとりだして教えてもらったり、癪癥を起こしたときはプレイルームでクールダウンできる。お友達とのトラブルでも間にはいって対処してくれる。偏食にも対応してくれる。毎日連絡帳で報告をしてくれる。支援級ということでクラスのお友達が気にかけてくれる。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

とにかく先生の対応が全然違う、お休みする際の連絡の電話など通常の先生は「どうしても来れないですか？」と、しつこく家まで迎えに来る事もありましたが支援級の先生は「無理しない方が良いです！ゆっくり休んでください！」と、親も安心して先生に電話出来ました。

Q7. 利用して良かったと感じる点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

ひらがなを覚えるのに時間がかかったのですが、それに合わせてもらえた事と気持ちの切り替えスペースを作ってもらえたところです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

少しのことなら対応が柔軟です。ノートのマスが小さく字がはみ出しつらうするので、1年生の時と同じ大きなマスのノートを使わせてください。の一言で良かったりします。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

<息子>転籍して1年過ぎました。最初の頃は荒れていましたが、先生の様々な配慮によりだいぶ落ち着きました。年に数回支援級限定の行事があり、楽しい！と言っています。毎日いろんな学年のお友達と過ごすので、時にはお兄さんになったり、時には上級生を頼ったり、様々な人間関係を学ぶことができるのは勉強以上に貴重な経験だと思っています。転籍して自己肯定感が高まりました。<母>先生の寄り添い方、合理的配慮、トラブル時の対応において通常級ではありえない速さで迅速に対応して下さります。担任の先生や特別支援コーディネーター（支援級主任）と密に連絡が取れて、気軽に相談できるのが一番ありがたいです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

とにかく丁寧に接していただいているので安心できます。登校したら何をすればいいのかから丁寧に上級生が教えてくれたので学校生活に直ぐに慣れ助かりました。野菜の栽培、収穫した野菜を使った調理実習、買物、服の畳み方など生活に纏わる授業があったり、他校の支援級との交流会やSSTなどの授業があるので本人が自信を持ってできることが増えました。理解度に応じてワークなど個別課題に取り組む時間もあり、他の学年がどんな勉強をしているのかを知れるのが本人のモチベーションになっていることもあるようです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

保育園から親しく、大切してくれたお友達が同じ学校にいること、健常児のお兄ちゃんが同じ学校にいること、ここが大きかったです。支援学級のお勉強がというのではなく、コミュニケーション

Q7. 利用して良かったと感じる点

ンを助けてくれるのは障がいのない仲間や兄弟、また兄弟のお友達です。支援学級じゃなく別の学校に行っていたら、そういったやりとりがなかったかなと思いますし、きちんと仲間として受け入れてくれる子どもたちの存在に、感謝ばかりの日々です。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

・先生との相性が良かった年は、比較的喜んで通うことができた・学習面でのつまづきが出てきた時には、やはり支援級での配慮が必要だった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

「オレ、初めて学校の勉強が楽しいって思ったよ」「オレと相性がいいらしい、あのクラスは」「トラブルなく過ごせることができた」と、本人が言葉に表してくるほど、良かったと実感しているのが伝わってきます。実際、1年生の時よりトラブルも減り、家族にとっても嬉しいです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

先生が子供個人の特性を理解して寄り添う努力をしてくれます。困りを伝えると、すぐに対応してくれます。学校全体（先生）で子供を理解しようと努めてくれます。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

その子に合った支援をしてくれるので本人にとっても良い環境になりました、スマールステップを大事にしてくれます。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

交流教室（通常級の教室）では先生の目も届きにくく、わからないところを丁寧に教えてもらうことができなかつたと思うので、少人数で授業を受けられるのは本人には向いていたと思います。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

子どものペースで授業や宿題が進められたことが良かったことです。子どもが1人では解決できないことを先生がサポートしてくれて、心が折れることなく通えています。

Q7. 利用して良かったと感じる点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

もちろん困りごとがゼロになったわけではありませんが、相談をしやすい環境／本人への聴き取りを大切にしてくれる環境になったことで、安心してのびのびと過ごすことができているようです。多くの先生たちに「表情が変わったね！何よりも眉間に皺を寄せていることがなくなった。」と言われています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

支援級の担任の先生がとても理解があり信頼できる方だった。一人一人の特性を理解してそれにあった方法で教えてくれていたり、当時好きだった仮面ライダーを絡めたプリント問題をわざわざ作ってくれた。興味があるので授業をしてくれたおかげで、家でも短時間ではあるが集中して学習する習慣が身に付いた。また、興奮したり友達とのトラブルの時も、まずは本人が落ち着くように対応してくれ、本人の話をしっかりと聞いてくれるので、支援級でよかったと思う。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

知的に問題がなく、自分のペースで学習が進められる。やる気をなくし手つかずだったワーク類も、自分でできることをほめてもらえるのでやるようになった。また、関わる人が少ないために関わりが濃厚になり、かえって周りの人に関心をもつようになった。人との関わりで問題となる行動を毅然と注意してもらえ、自分で気を付けるようになった。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

とにかく先生が優しく温かく見守ってくださっていたので、のびのび生活することができました。毎日送迎時に日中の様子を先生からお話を聞けたり、手帳にもコメントをいただいていたので、日々情報交換ができるて保護者も安心して預けることができました。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：通級】

現時点では通級に通わせて良くなかったことはないです。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

周りのクラスの子から見れば、あの子はみんなより出来ない子、ちょっと変わっている子という偏見があると思います。でも、少人数ではあります、だから優しくしてくれる子もいます。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

最終学年の6年で合わない先生が支援の担任になってしまい、前任の先生の引き継ぎが何もされてなく、子供のことをあまり理解してもらえず、子供も1年間体調不良が続いた。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

何で自分は学校をふたつも行かないといけないのかと聞かれた時です。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

息子本人の自立が進むと、なぜ自分が支援クラスに在籍しなければならないのかという思いが出てきたようです。元々、知的の遅れがなかったため、中学校においては、支援クラスに在籍する自分が嫌だったようです。また、中学の支援クラスの担任に恵まれず、親子共々嫌な思いすることになりました。中三では支援クラスを抜け普通クラス単のみ在籍しています。家族間は反抗期を迎え、コミュニケーションが難しいですが、学校においては一見すると優等生に見えます。でもクラスメイトとのコミュニケーションにも、やはり仲間のフォローあっての潜在的な問題があるようです。今後の対応が課題です。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

特別支援級ならば、毎日の登校が通級の様になる=通級の日以外の行き渋りがないのかなと感じている。きっと特別支援級の先生も通級のように優しいのだろうなと思うため、それだけで本人が毎日学校に行きたいと思うのではないか、と感じている。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：通級】

正直、他の通級に通っている生徒と我が子のレベルが違いすぎて、現在2年生ですが、1年生の頃は楽しく通っていましたが、現在は本人も差を感じるのか通級に通うことを嫌がるようになって来ていて、通わせ続ける事が良いのかどうか不安になってきています。通級、卒業のタイミングが難しいです。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

勉強が苦手なのは小さい頃の過ごし方が悪かったのか、一緒に取り組んでおけば良かった。今一緒にやる事でなんとか理解している。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

担任より通級の先生との信頼関係の方が強く、普段の授業を行かないことが増えた。でも、そこまでは良くないとは思っていません。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

一切ありません。親としても、このようなところで支援を受けさせてもらえることに感謝しかありません。授業が遅れてしまう事が、本人が大変なようですが、頑張っています。

【利用している特別支援教育の種類：通級】

まれに担当の先生と合わないことがあった。優しく褒めてくれる先生とは合うが、上から指導してくれるタイプの先生の時は、通級も行き渋った。でも、ほとんどの先生は、いい先生だったので、問題なく通えた。後悔は、通常級に馴染めず苦労し、その後不登校になったので、通級より、もっと手厚い特別支援級の方が良かったのではないか、ということ。学校の先生も、私も、そこはかなり微妙な線で迷っており、一度、5年生の時、支援学級も体験で行かせてもらったが、本人が「通常級も合わないけど、支援学級もちょっと違う」と言って、選ばなかった。私が住む自治体には、知的の支援学級しかなく、情緒の支援学級がある他市が羨ましかったが、引っ越しすることまでできなかった。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

後悔はありません。色々なお子さんがいて、声が苦手だったり、動きが苦手だったりして、本人が乗り越えなければいけないこともあります。慣れること、先生の言葉掛け、対処方法を先生と一緒に考えて、乗り越えることができました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

先生方には恵まれた息子ではありますが、ただ1人、理解のない先生が担任になったことがあります、その2年間は親子でかなり苦労しました。それも、もしかしたら私たちに課せられた試験かもしれない、その状況すらも学びのつもりで過ごしてきました。できないことばかり指摘され、無理な学習プログラム、本人に向いていない授業形態…本人の理解が難しい部分を全て家庭に押し付けられ、それでもなんとか本人の分かるよう、家庭学習にも工夫を凝らし、親子で乗り切った2年間でした。関連機関に相談もしましたが、改善には至らなかったのが残念でした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

先生の中には、支援学校や障害のある子に対しての接し方に疑問がある方がいて、意思疎通が難しいことが結構ありました。理想が高いのは結構ですが、子供が自分についてこれないと機嫌が悪くなったり、とてもひどい言葉を受けたことがあります。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

特にはないです。あるとしたら学校行事で合流したときお客様扱い（コソコソ話しが始まる）くらいです。行事は合流しなくてはならず居心地良くないです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

担任の先生により波が大きく、仕事にすらならないため生活を考えると初めの一年は支援学級を選んだ事、そこの学校に通わせた事、全てが後悔でしかありませんでした。また、住んでいる市町村では発達支援がとっても遅れているため、周りの理解がとても少なく辛い思いを沢山しました。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

通級の子達と関わる機会が極端に減ってしまった事です。幼稚園の頃は健常の子たちから学ぶ事がすごく多かったなあと感じています。また勉学面でももう少し本人の能力を見て、合わせてもらいたいなあと感じています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学校】

幼稚園で3年間頑張ってこれたけど1年生の時は物足りなく感じて不安になったり違ったかなと思ったけど学年が上がるにつれてその理由がわかった支援学校は今後生活に必要な当たり前の事を当たり前に出来るように身に付けていくところ

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

本格移行のときに、担任がかわり支援についての資格を持つ先生が赴任したが、軍隊のような押し付けばかりが目につき、子どもの思いや頑張りを認めることのない教育が続き、友だちが無表情になり全身尋麻疹になってからは、息子も登校拒否を起こすようになった。また、交流授業で、その時間に制作があったが、授業数が足りないからと見学だけさせて、実技はやらせず交流授業でみんなが作ったものを渡されたときに自分たちではなく、抗議したが、逆に怒られ更にいろいろなことに怒りを出すようになり、登校拒否がひどくなったり、早退も増えた

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

支援級の先生と普通級の先生との連絡が上手くいかない時期がありました。低学年の時に連絡帳に時間割とか宿題を書いて来るのですが半分しか書かれていないこともあります。宿題は支援、時間割は普通級なので子ども忘がちでした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

やはり、交流級への授業に対してついていけなかつたり、運動会の時イスに座ってる時1人ポツリだつたりしているところをみると、あららと思います。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

高学年時の先生が、息子を思うばかりにイジメられた時に、相手の子を強く叱責したので、人間関係が少しこじれた事。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

先生にもよると思いますが、担任の先生がとにかく字を練習しないと書けないと、たくさん書かせるので先生が嫌いになってきたこと、親の私と先生の意見の食い違いで適切な支援ができないこと。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

高学年になり、中学進学が視野に入って来た時、やはり学習の遅れが気になり始めた。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

ADHD の子、自閉症の子、LD など、特性が様々なため、一人ひとりに合わせた対応は難しい。先生の人員が足りない。これは、私が住んでいる地域性もあるが、学校全体として発達障害全般についての認知、理解がない。まだまだ偏見と差別がある。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

良くなかったことは言えませんが、他の生徒さんの障害状況によっては、授業にならないようなことがあったようです。クラス生徒までは選べないのでしょうがないですね。苦しんでいるときはみんなで気分転換したりして落ち着かせるようです。それは、我が子も同じことになるかもしれません。みんなで仲間をサポートすることは、その子の立場になって考えて行動できることであり、思いやりを育む機会かもしれません。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

回りからの本人に対するイメージがちょっとちがう人という風になってしまった。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

全部が全部の先生が知識を持っているとは限らないこと。中学校に進学する際に、通常級にもどす時に審査があったこと。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

友達が少ないので、そこが悩みになっています。普通級と合流授業があっても仲の良い子がいないので行きたくないと言ったり輪に入れないみたいで困っています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

支援級で過ごす事が快適で、通常級（交流級）との関わりが、本人の希望により、ほとんどない時期があり、どうかな？と思っていましたが、成長に伴い、本人の方から、通常級（交流級）にも興味を持つようになり、疲れるけれど参加してみたいという意欲がみられるようになりました。特に後悔している事はないです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

本人のペース次第なので、教科書全部を行えないのが仕方ないが残念だなと思う。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

後悔はありませんが先生と1対1ではないので他の子がふざけるとふざけ始めたり集中は出来ないのかな。と思いました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

からかうタイプの子の標的になりやすいのかもしれない。からかわれやすい。怒って叩くことでトラブルになる。でもそれは支援級だからというより本人の特性の問題かもしれない。お手伝いしてくれようとする子とトラブルになることもある。本人は自分でしたいけど、

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

ありません強いて言えば内申がもらえない事。全くもらえない訳ではないのですが都立受験は難

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

しい…

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

支援級の担任の先生は発達障害の特性を理解しているものだと勝手に思っていた為、話が通じないことが何度かあり、どうしたらいいのか分からなくなってしまったことがあります。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

これだけは担当される先生によると思います。1年生では男の先生、2年生で若く経験の浅い女の先生となり、本人が先生の力量を1日で見抜いて帰ってきました。それからは、簡単に想像できるように自分の嫌なことがあれば暴れたり教科書破ったり…それで回避できた1度の経験から大変な日々です。交流の先生が厳しい先生で、交流級での活動の方が自分を抑えて頑張っているようです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

<息子>通常級にも友達が多いため、少し前までは通常級へ戻りたがっていました。しかし最近は昼休みや放課後に通常級の友達と遊んでいるため、授業は支援級でいい！と思い始めたようです。<母>転籍したことに後悔はありません!低学年のうちに転籍しておいて良かったです。ただ、学習はどうしても通常級より時間が取れないため、自宅等でプラスアルファの勉強が必要だと感じ始めました。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

校長先生、支援の先生とともに、自閉症児の知識や対応の仕方をほとんど知らず、1年生の間は何度も学校に足を運び、「いざというときの逃げ場が必要なこと」「感覚の違い」「否定しないことの大切さ」など、自分から説明し、真摯に心を通わせてほしい、人と人として向き合ってくださいと、本気でぶつかり続けたことは、大変でしたが、今では校長先生もほかの先生方も理解を深めてくださり、良好な関係を築くことができました。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

今のところは後悔していませんが、これから先、同級生と一緒にないことに悩まないかなという心配はあります。ただ、状態が安定してから通常学級にいくことも可能なので、そこを目指して日々サポートしています。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

・先生によっては、正直、支援級の良さが感じられなくなった・後悔はないが、学校ですべてを補うことは不可能だという現実は、当たり前に存在すると感じている。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

今は特にありません。小学校はいいとして、その先はどうすればいい？という漠然とした不安があります。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

1人だけお友達と離れたため、休み時間は自分から遊びに行けずあまり交流ができていないこと。交流級では孤独感を感じてしまっていること。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

息子の小学校は国語と算数のみ支援級で、他の授業は通常級で受けます。ですが、メインの担任は支援級の先生に丸投げ状態で支援級の生徒にはノータッチなところがあり、普段全く関わろうとしないくせに怒る時だけは過剰に怒ります。支援級の先生は他の学年も受け持っており、ずっと付いていてくれるワケではないので、国・算以外の時の息子の様子はあまりわかっていないようです。そのせいで息子が通常級の方での授業を嫌がり、登校拒否をするようになりました。なのでもしかしたら軽度知的障害もあるから支援学校にした方が良かったのかも…と悩む事があります。

Q8. 利用して良くなかった・後悔している点

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

良くなかったことや後悔していることはありませんが、通常級でも支援級と同じようなサポートがあればいいのにと思うくらい過ごしやすい空間でした。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

特にありません。強いて言うなら、自分のペースで学習することに慣れ、通常学級での一斉授業で、問題を解いた後に手持ち無沙汰になり、落書きをする、寝てしまう。それで、大事な話も聞き落とすことです。

【利用している特別支援教育の種類：特別支援学級】

保育園より預けられる時間が限られていたため、正社員を諦めました。退職後は気持ちや時間の余裕もできたため、育児に対してはプラスだと思ったので後悔はしていませんが、続けられる環境があったらなあと思います。療育を受け始めた頃は自分の仕事を優先させてしまっていたため、もう少し早く手厚く療育を受けさせてあげた方が良かったかなあとも思います。



一般社団法人
人間力認定協会